

山本


自走カッタ

取扱説明書

CX-161SJM3

CX-201SJM3

安全上の大切なお知らせ

- この山本自走カッタを取り扱う場合には、正しい方法で、正しく取り扱うことが大切です。正しい取扱い方をしないと、予想しない事故を引き起こし、人身傷害や財産の損壊を起こす恐れがあります。
- この「取扱説明書」では、予想できる限りの危険な状況をあらかじめ知っておいていただくために、警告の内容によって危険な状況を、そのアラートシンボルマーク（)とシグナルワード（危険、警告、注意）を付けて表示しています。



この表示は、指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことに至る切迫した危険状況を示します。



この表示は、指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性のある危険状況を示します。



この表示は、指示に従わなかった場合、重傷または中程度の傷害を負う可能性のある危険状況を示します。



この表示は、指示に従わなかった場合、物的損害の発生のみ予測されるような種類の危険状況を示します。

- 本自走カッタは、下記切断物の切断用として設計してあります。その他の用途では使用できません。

	切断物直径	種類
切断物	せんてい枝・残条 φ20mm以下	稲わら・牧草・山草・デントコーン・野菜 全般の茎・せんてい枝・桑の残条・タバコ残幹

- 本自走カッタの取扱いについては、定められた管理者が、必ず安全運転教育を受けておこなってください。

はじめに

お買上げありがとうございました。

- この「取扱説明書」は、山本自走カッタ CX-161SJM3型、CX-201SJM3型の安全に関する事項、運転手順および点検整備の手順を説明しています。
- この「取扱説明書」をよく読んで理解してから、本書の指示に従って自走カッタの運転および点検整備をしてください。
 - 初めて使う方は、まず全体をよく読んでください。使ったことのある方は、少しでも疑問が生じたら一度読んで確かめてください。
 - 本自走カッタを他の人に操作させる場合も、この「取扱説明書」を読んで理解するように十分指導してください。
 - 操作するときの重要な取扱いについては、その内容を線で囲み「注記」の文字を付けてあります。
 - この「取扱説明書」は、本自走カッタのそばに置いて、いつでも誰でも参照できるようにしておいてください。もし、本書を紛失した場合は、購入先へ依頼して取り寄せ、必ず備え付けておいてください。
 - この「取扱説明書」に用いた写真や図は、本書を制作した時点のもので、本自走カッタは、製品改良により設計変更をすることがありますので、お客様の自走カッタの外観が本書の写真や図と部分的に異なることがあります。しかし手順は同じですので、この「取扱説明書」の指示に従ってください。

- 製品の機体銘板は、図示の位置に貼り付けてあります。この製品についてお問合せのときは、機体銘板に記載されている「型式名と製造番号」をお知らせください。
- お買上げの製品またはこの「取扱説明書」についてご質問などありましたら、お買上げの購入先にお問合せください。



も く じ

(表紙裏) ▲ 安全上の大切なお知らせ
はじめに

ページ

第1章	安全	1
1. 1	安全に関する重要警告事項	1
1. 2	火災予防に関する重要警告事項	4
1. 3	「警告ラベル」の貼付け位置	5
第2章	製品の概要	9
2. 1	仕様	9
2. 1. 1	主要諸元	9
2. 1. 2	使用ベルトの仕様	10
2. 2	外形寸法図	11
2. 3	各部の名称	12
2. 4	運転装置の構造・機能	13
2. 4. 1	自走カッタの作動原理	13
2. 4. 2	動力伝達装置	13
2. 4. 3	操作装置	15
第3章	据付準備作業	17
3. 1	梱包部品の確認	17
第4章	組立て作業	21
4. 1	送り樋カバーの取付け	21
4. 2	吐出口の取付け	21
4. 3	給油	22
4. 4	試運転作業	23
4. 4. 1	試運転前の確認事項	23
4. 4. 2	試運転	24

第5章	運転操作	27
5. 1	運転前の準備	27
5. 2	エンジンの始動	28
5. 3	走行運転	31
5. 3. 1	前進走行	32
5. 3. 2	後進走行	33
5. 4	カッタ作業	34
5. 4. 1	カッタ作業の手順	34
5. 4. 2	供給物の上手な供給方法	35
5. 4. 3	刃物の研磨時期の見分け方	36
5. 4. 4	放出距離の合せ方	36
5. 5	エンジンの停止	37
5. 6	緊急停止	38
5. 7	作業終了後の点検	39
第6章	簡単な故障診断	41
第7章	点検・調節・整備	43
7. 1	始業点検	43
7. 2	定期点検	46
7. 2. 1	20時間後の点検（第1回目）	46
7. 2. 2	50時間後の点検（第2回目）	46
7. 2. 3	300～500時間（カッタ作業）毎の点検	46
7. 3	内部の切りくず、軸の巻き付きの掃除要領	47
7. 4	燃料の補給要領	48
7. 5	給油の要領	49
7. 6	給脂の要領	51
7. 7	切断長さの調節	52
7. 7. 1	チェンジギヤの交換要領	53
7. 7. 2	バランスウエイトの取付け要領	54
7. 8	刃物の交換と調節の要領	56
7. 8. 1	回転刃の交換	56
7. 8. 2	固定刃の交換	57
7. 8. 3	刃物のすきま間の調節	57
7. 8. 4	刃物の研磨の方法	59

	ページ
7. 9 ベルトの張り方	60
7. 9. 1 走行ベルトの張り方	60
7. 9. 2 カッタベルトの張り方	61
7. 10 ブレーキの調節	62
7. 11 前・後進用ワイヤの調節	63
7. 12 消耗品	64
第8章 格納・長期保管	65
8. 1 格納の要領	65
8. 2 長期格納の要領	65

第 1 章

安 全

本自走カッタの取扱いを始める前は、必ず下記の重要警告事項を読んで、理解してください。

1.1 安全に関する重要警告事項

⚠ 危険

1. 安全上の基本的危険事項

(1) 子供を本自走カッタのそばで遊ばせないでください。子供は本機の操作レバー類をいじる可能性があり、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

(2) 作業をするときは、右図のような作業にあっただちにした服装でおこなってください。機械に巻き込まれたりする恐れがあります。

点検・整備をするときは、右図のような服装にくわえて、必要に応じてヘルメット、防護メガネ、手袋、マスクを着用してください。



(3) 二人以上で作業をするときは、安全のために声をかけあっておこなってください。一方の人がうっかり操作レバーを操作してしまうと、人身事故を起こす恐れがあります。

(4) 次に挙げる人は、作業をしないでください。

- ① 飲酒し、酒気を帯びている人
- ② 薬剤を服用し、作業に支障のある人
- ③ 病気、負傷、過労等により、正常な作業が困難な人
- ④ 年少者（18歳未満）

危険

2. 走行中の危険事項

- (1) 発進・停止は低速でおこなってください。人身事故を起こす恐れがあります。
- (2) 坂道や凸凹、カーブの多い道路では高速運転をしないでください。転倒などをして、人身事故を起こす恐れがあります。
- (3) 走行しながらのカッタ作業は、絶対にしないでください。人身事故を起こす恐れがあります。

3. 作業中の危険事項

- (1) エンジンを始動するときは、必ず走行クラッチレバーを「ブレーキ」、カッタクラッチレバーを「切」、供給クラッチレバーを「切」の位置にしてください。また走行クラッチレバーを固定金具で固定してください。その後、停止スイッチを「運転」の位置にして、始動ロープを引いてください。始動ロープを引いたとき、走行したり回転刃が回転したりしてしまい、重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- (2) 本自走カッタから離れるときは、次のことを守ってください。人身事故または火災の原因となる恐れがあります。
 - ① 安定した場所に置いてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、車輪止めの石などを車輪に当てがって、自然発進を防止してください。
 - ② エンジンを停止させてください。
 - ③ 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にしてください。
 - ④ 走行クラッチレバーを固定金具で固定してください。
 - ⑤ エンジンが冷えるまで離れないでください。
- (3) エンジンの始動後、供給口や吐出口から手を入れないでください。うっかり手を入れると人身事故を起こす恐れがあります。
- (4) 運転中、供給物を引っ張ったり、押し込んだり、付着物を手で取ったりすることは絶対にしないでください。人身事故を起こす恐れがあります。
- (5) カバーをはずしたままで運転しないでください。供給口や吐出口の内部にうっかり手を入れると人身事故を起こす恐れがあります。
- (6) カバーをはずしたままで運転しないでください。回転部に接触し、人身事故を起こす恐れがあります。

⚠ 危険

4. 点検・調節・整備に関する危険事項

- (1) 本自走カッタの点検・調節・整備をするときは、必ずエンジンを停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- (2) 本自走カッタの点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類を確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、回転物に接触、または巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- (3) 安全カバー類をはずすときは、必ずエンジンを停止させてからおこなってください。運転したままはずすと、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

1.2 火災予防に関する重要警告事項

- 下記の項目は、火災を発生する原因となる恐れがあるので守ってください。

危険

1. 燃料等に関する火災予防事項

- (1) 燃料の給油中は、くわえたばこ、または裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火するので危険です。
- (2) オイルの給油中は、くわえたばこ、または裸火照明は絶対にしないでください。オイルに引火するので危険です。

警告

1. エンジンに関する火災予防事項

- (1) 本自走カタから離れるときは、エンジンを停止させて、冷えてから離れてください。
- (2) 燃料タンクや燃料パイプから油もれがないことを確認してから運転してください。
- (3) オイルを給油するときは、エンジンを停止させて、完全に冷えてから補給してください。
- (4) 給油後、給油口のキャップを確実にしめて、こぼれた油類をきれいに拭き取ってください。
- (5) エンジンの周辺はいつもきれいに掃除してから運転してください。

1.3 「警告ラベル」の貼付け位置

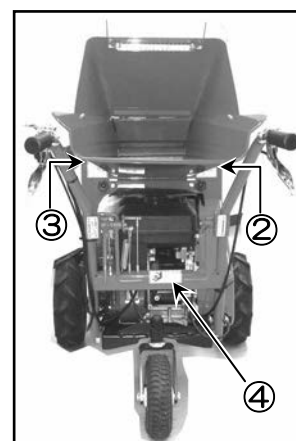
- 「警告ラベル」は、図示の位置に貼り付けてあります。
- この「警告ラベル」には、「危険マーク」・「警告マーク」・「注意マーク」の3種類があります。これらの警告の内容は、この「取扱説明書」の最初の「**▲** 安全上の大切なお知らせ」のところで説明しましたことと同じです。必ずその指示に従ってください。
- これらの「警告ラベル」およびその他のラベルは、いつもきれいにして、人に見えるようにしておいてください。ラベルが紛失あるいは損傷した場合は、そのラベルを購入先から取り寄せ、所定の場所に貼り付けてください。

注 記

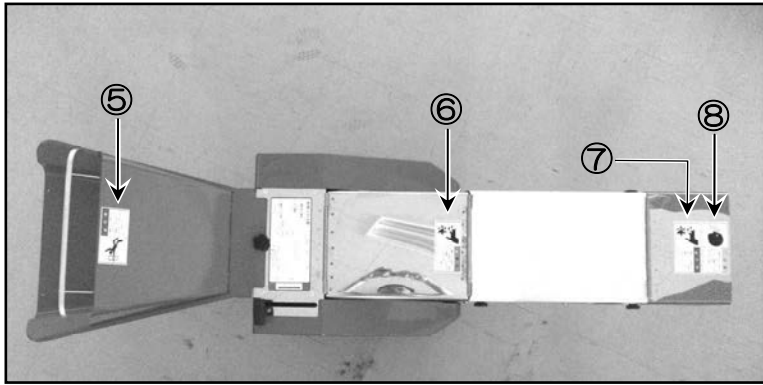
- 本カッタの右側または左側とは、操作する人が本機の前面（供給口側）に向かって立った位置から見て、右または左を指します。



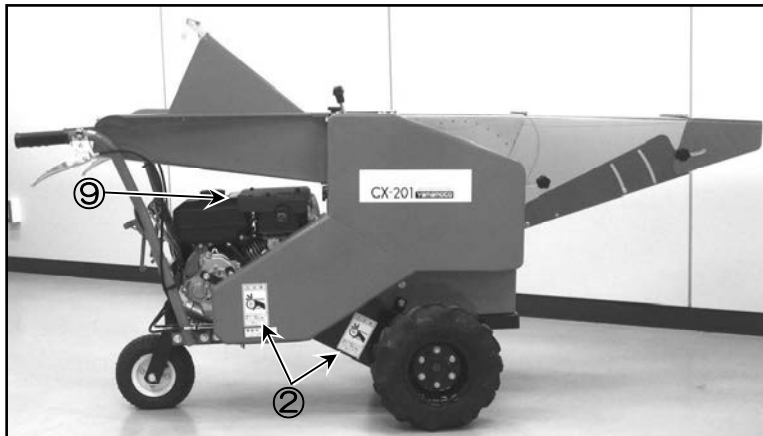
(左側面)



(前面)





(平面)



(右側面)

① 取扱注意マーク

(部品コード：298105-1800)

	<p>本機を運転するときには、必ず取扱説明書をよくお読みください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本機を運転するときには、周囲の安全を確認してください。 2. 運転前には必ず点検や整備をしてください。 3. 点検や整備をするときは、必ず動力（エンジン・電源など）を停止してから行ってください。 4. 原動機の点検整備は、原動機が冷えてから行ってください。 5. 原動機は、過熱しますので周囲をいつも整理し、火災防止につとめてください。 6. 点検整備で取り外したカバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。
	<small>298105-1800</small>

② ベルト注意マーク
(部品コード：297110-0600)



③ ギヤ注意マーク
(部品コード：297111-0600)



④ 走行注意マーク
(部品コード：298107-0800)



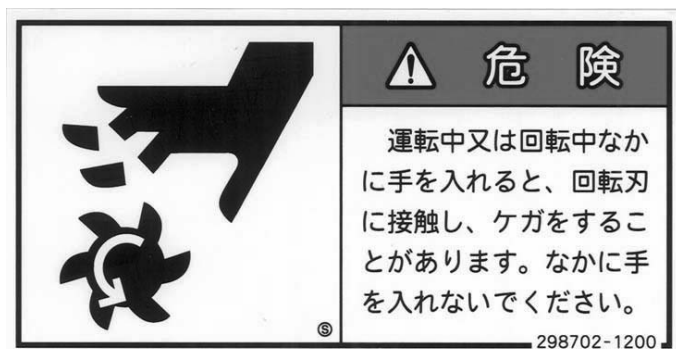
⑤ ローラ危険マーク
(部品コード：298703-1200)



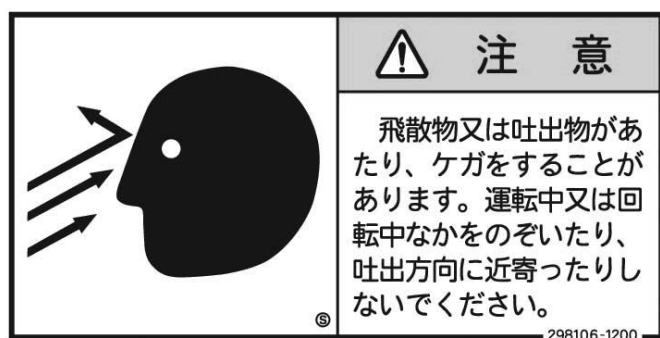
- ⑥ 回転刃警告マーク
 (部品コード：298500-1200)



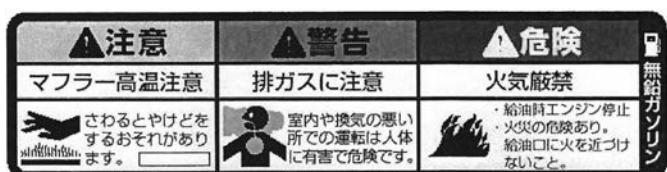
- ⑦ 回転刃危険マーク
 (部品コード：298702-1200)



- ⑧ 飛散注意マーク
 (部品コード：298106-1200)



- ⑨ コーションラベル
 (部品コード：119165-430130)



第 2 章

製品の概要

2.1 仕様

2.1.1 主要諸元

項目		単位	仕様値		
型式		—	CX-161SJM3	CX-201SJM3	
機体寸法	全長	mm	1900		
	全幅	mm	680		
	全高	mm	1090		
機体質量		kg	115	122	
所要動力		kW	常用 2.3/1800 最大 3(4.2PS)	常用 3.4/1800 最大 4.6(6.3PS)	
走行部	タイヤ	—	13×3.5-6R (ワムラスタイヤ)		
	トレッド	mm	580		
	走行速度	前進	km/h	2.30 (エンジン 1960rpm 時)	
		後進	km/h	2.30 (エンジン 1960rpm 時)	
	クラッチ機構	—	テンションクラッチ式 (ブレーキ付)		
	走行装置	—	サイドクラッチ付ハンドル		
	力	毎時性能	kg/h	1000~2000 (ワラ) 4000 (デントコーン)	1200~2500 (ワラ) 5000 (デントコーン)
はね出し機構		—	シリンダタイプはね出し型		
はね出し距離		m	1~6		
回転刃の枚数		枚	2 (ねじれ刃)		
切断寸法		mm	19・47・77		
切断寸法切替機構		—	歯車交換式 (3段)		
主軸回転数		rpm	800 (長切 600)		
クラッチ機構		—	テンションクラッチ式		
口幅		mm	160	200	
オプション	バランスウェイト	—	可 (1枚刃使用時)		
	ギヤ	—	14・36 16・34		
摘要		—	エンジン搭載 ケーシング・吐出口 (ステンレス) 緊急停止スイッチ付		

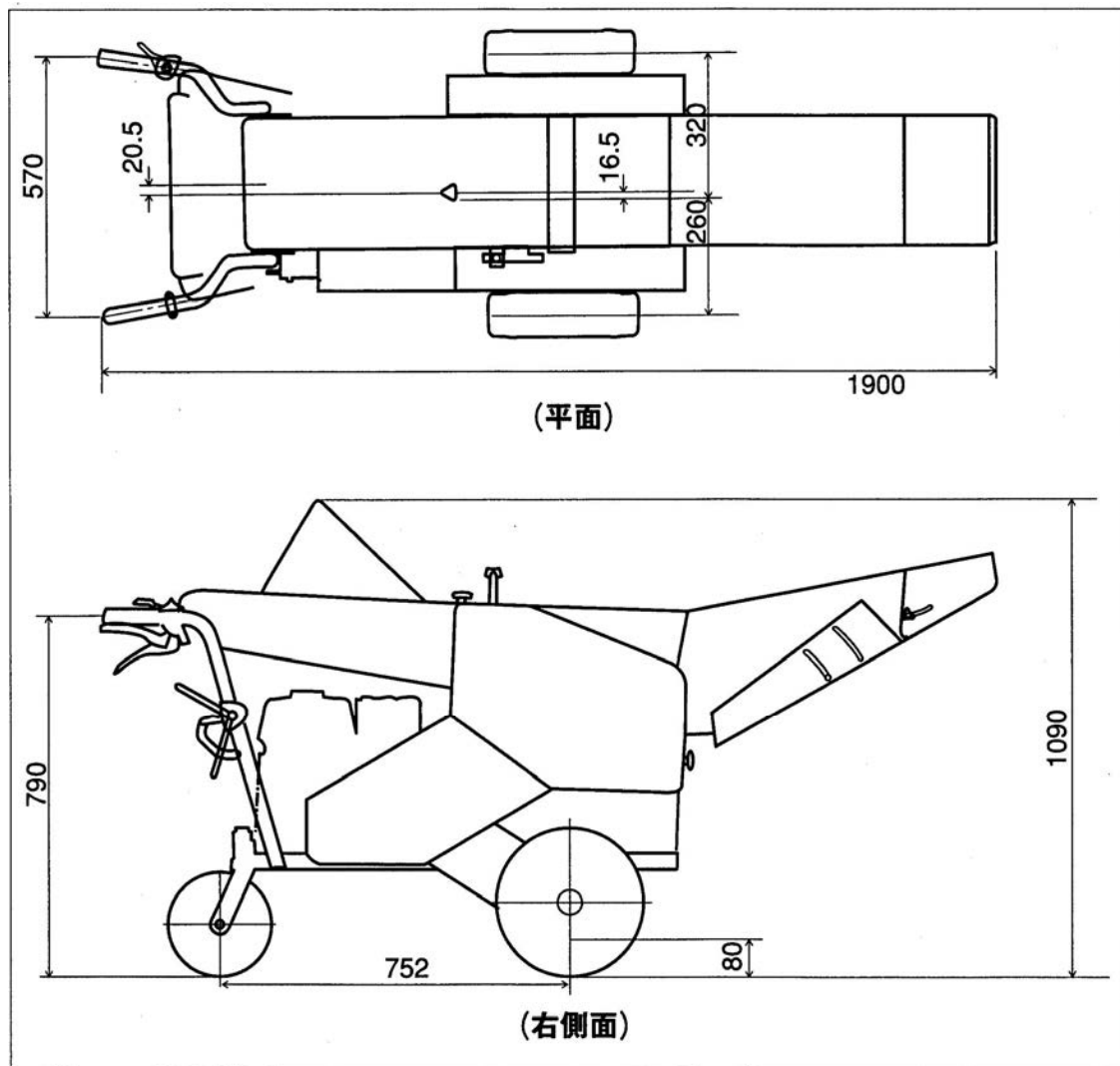
注 記

- 毎時性能は、小さい方の値は稲わらの 19 mm切断、大きい方の値がデントコーン 19 mm切断の場合です。
- はね出し距離は、乾燥わらの場合です。生牧草類などの場合は、乾燥わらの値の 1/2~ 2/3 になります。

2.1.2 使用ベルトの仕様

	個数	CX-161SJM3	CX-201SJM3
カッタ駆動用	1	LB67	LB67
カッタ減速用	1	LA36	LA36
走行用	1	LA46	LA46

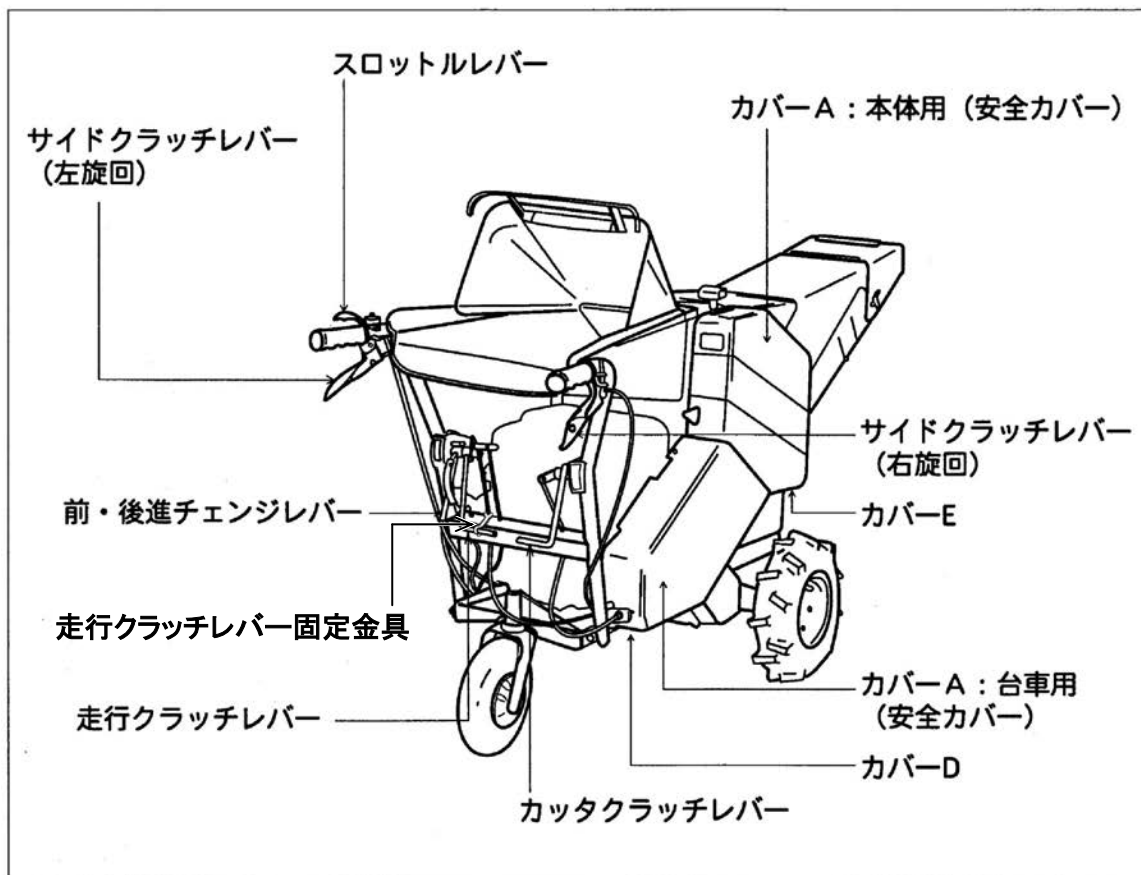
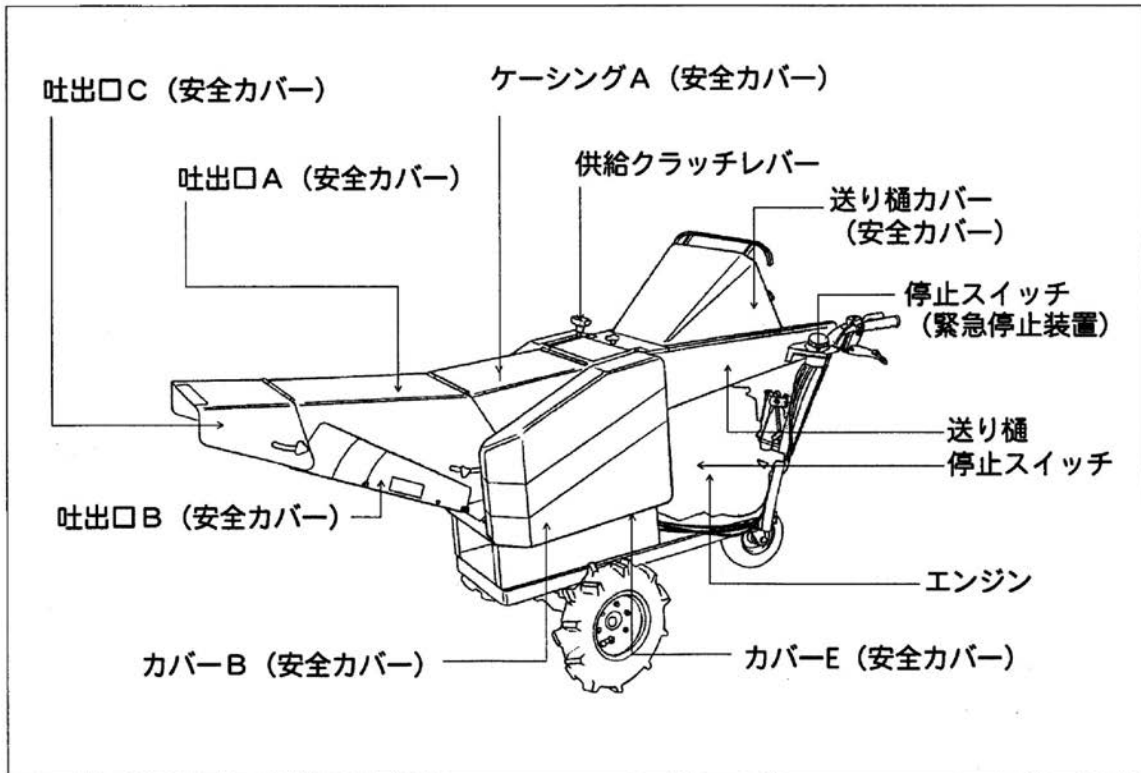
2.2 外形寸法図



注 記

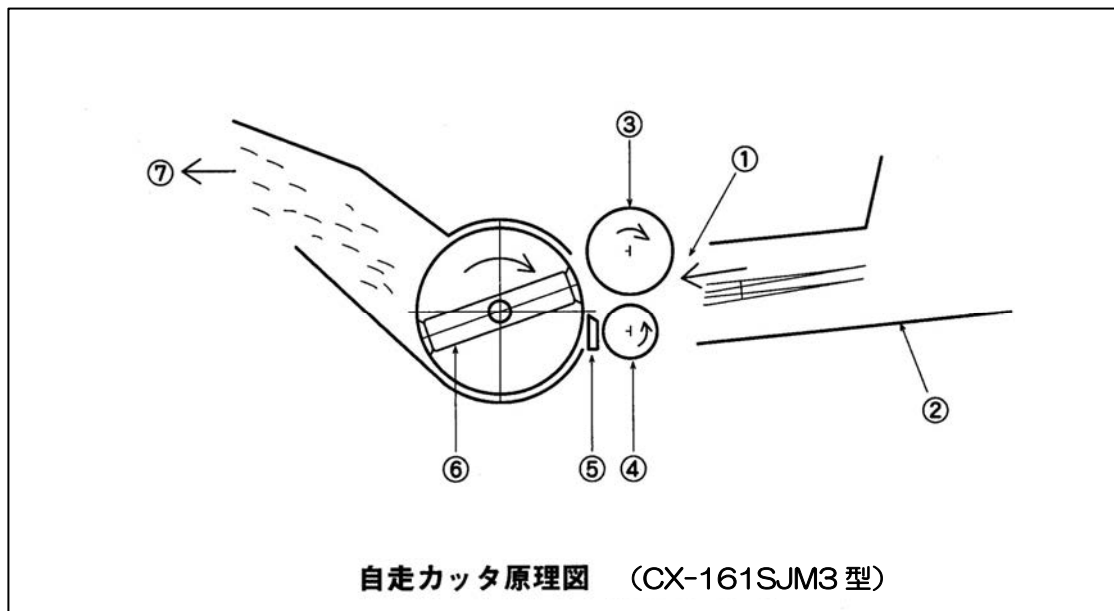
- 本自走カッタの右側または左側とは、操作する人が本自走カッタの供給口に向かって立った位置から見て、右または左を指します。
- 本自走カッタの前は操作する人が向いている方を前、その先端を前面、逆の方向を後、その後端を後面といいます。

2.3 各部の名称



2.4 運転装置の構造・機能

2.4.1 自走カッタの作動原理



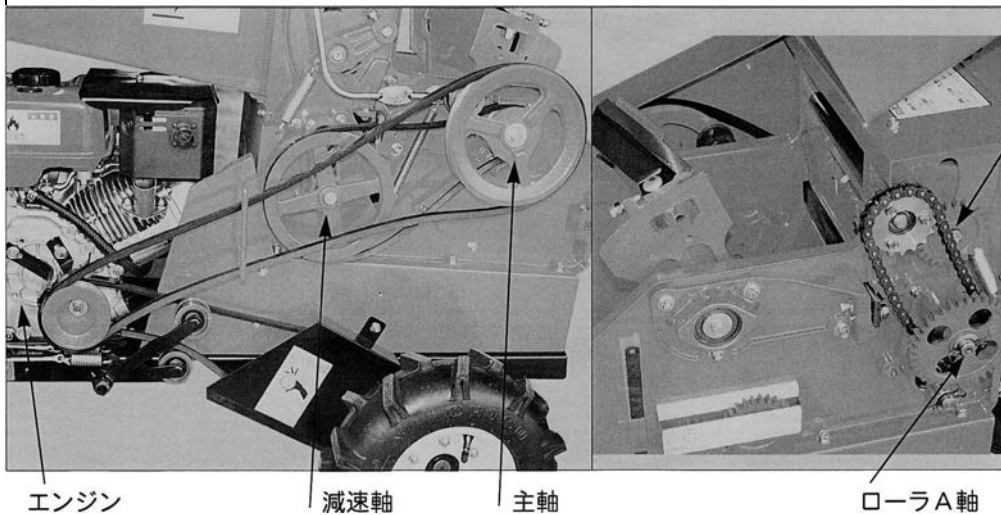
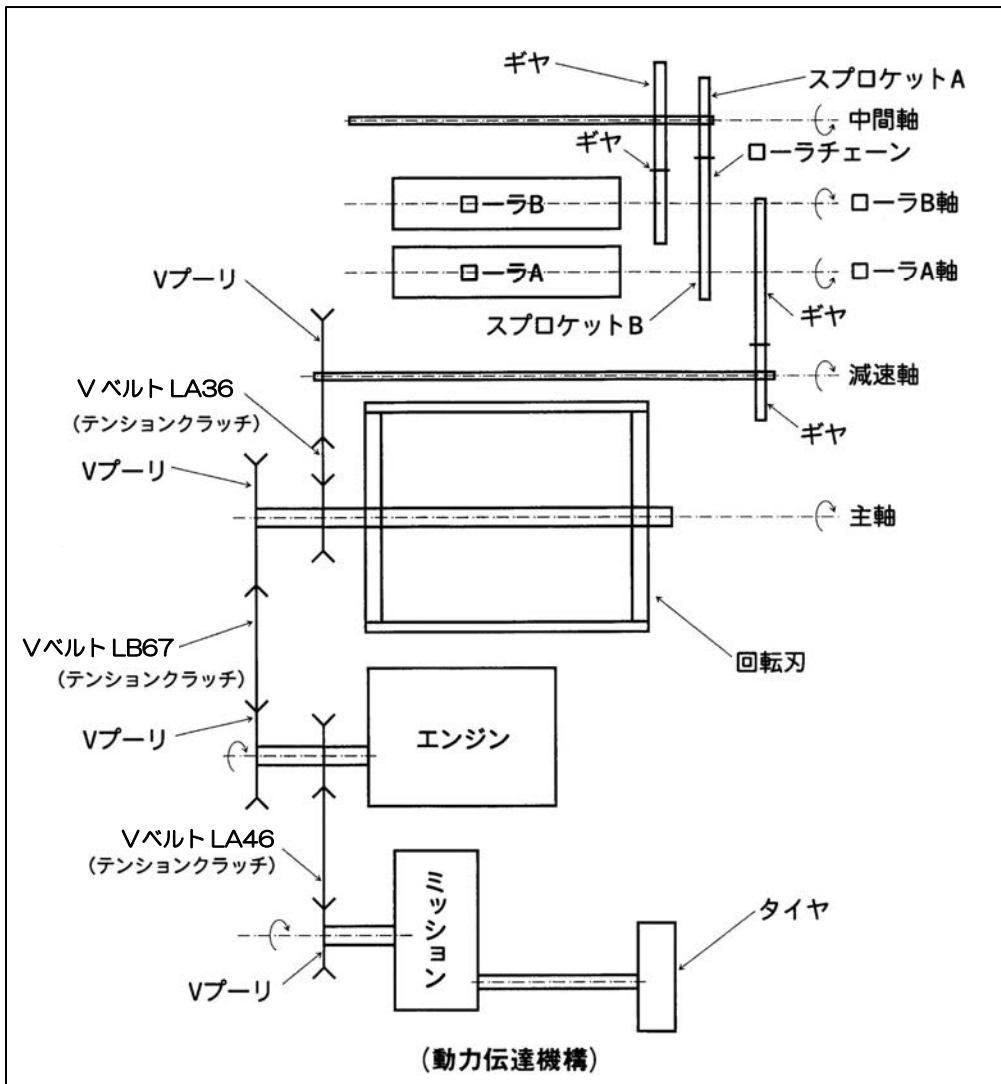
供給樋②により送られてきた供給物は、供給口①からカッタ本体の内部に入り、送り込み用上ローラ③と送り込み用下ローラ④にはさまれて、更に奥の固定刃⑤の上にも送られます。固定刃の上にある供給物は、主軸に固定された回転刃⑥に当たり切断されます。

切断された切断物は、やはり主軸の回転刃の内側に固定された翼板の回転作用によって、吐出口⑦にはねとばされて排出されます。

2.4.2 動力伝達装置（動力伝達機構図を参照）

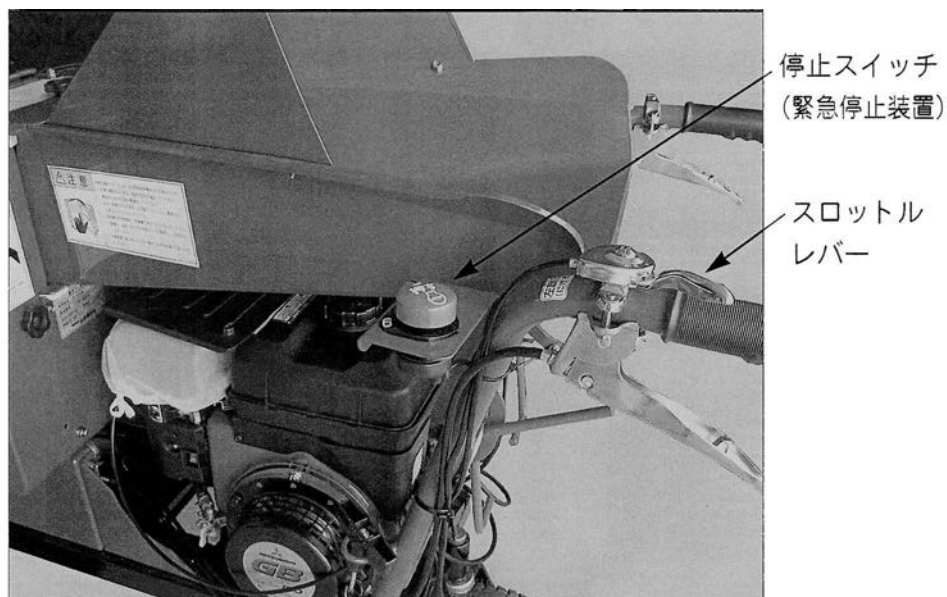
エンジンを回転させ、走行クラッチレバーを「ブレーキ」から「入」の位置に切り換えると、エンジンプーリとミッションプーリにかけられているVベルトが緊張し、エンジンの回転がミッションに伝達されます。そして、ミッションを介してタイヤが駆動され走行します。

次にカッタクラッチレバーを「切」から「入」の位置に切り換えると、エンジンプーリと回転刃プーリのVベルトが緊張して、エンジンの回転が回転刃に伝達されます。さらに供給クラッチレバーを「切」から「入」に切り換えると、歯車の減速機構を介して供給ローラに伝達されて供給ローラが回転し、カッタ作業がおこなえます。



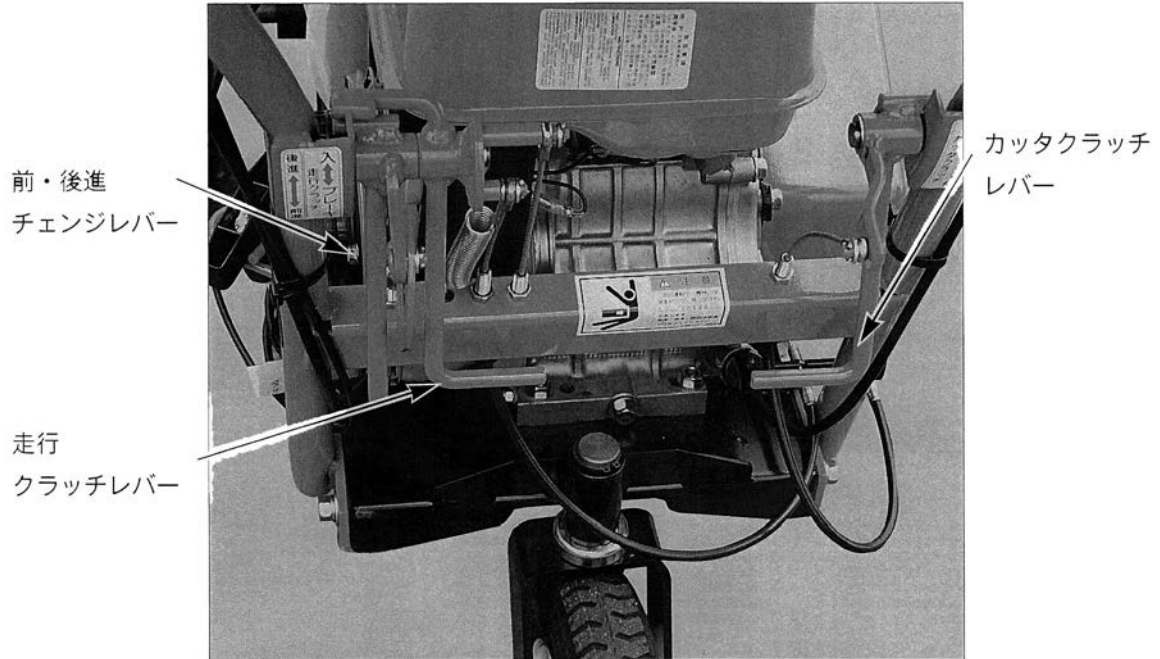
2.4.3 操作装置

(1) エンジン操作装置



(2) 走行装置用レバー

(3) 作業装置用レバー



第 3 章

据付準備作業

3.1 梱包部品の確認

注意


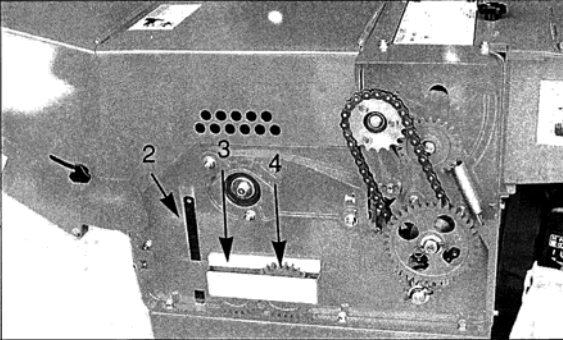
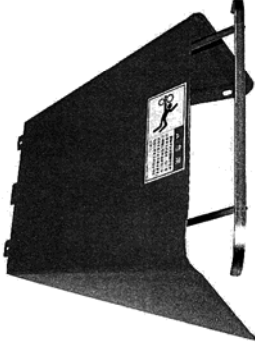
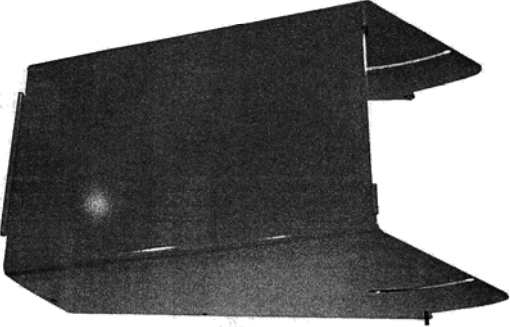
- 開梱する際は、木枠梱包の釘などでけがをする恐れがあるので注意して開梱してください。

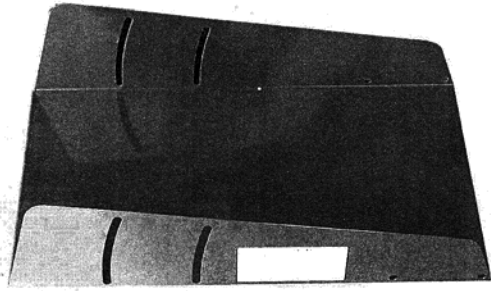

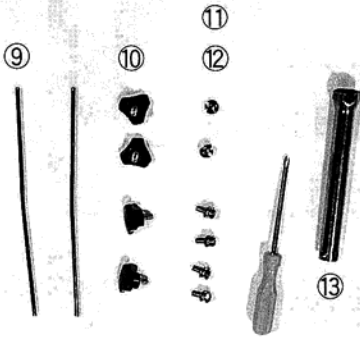
- (1) 梱包の型式に誤りがないことを確認してください。
- (2) 梱包内の部品に員数不足がないことを確認してください。
- (3) 梱包内の部品に不良品がないことを確認してください。
- (4) 上記(1)～(3)の中で異常がある場合には、購入先へ製造 No、部品名称および必要個数を連絡してください。

警告

- 開梱した廃材などは、お客様と相談の上、安全な場所に片付けてください。
開梱した木材には釘が出ているので、そのまま置いておくと重傷を負う恐れがあります。また、ビニール袋などは子供がかぶって遊ぶと死亡事故につながる恐れがあります。

● 梱包の明細表

梱包名称	符号	部 品 名 称	個数	形 状
木 枠	①	カッタ本体	1	
	②	刃合せゲージ	1	
	③	ギヤ22T	1	
	④	ギヤ28T	1	
梱 包	⑤	送り樋カバー	1	
	⑥	吐出口A	1	

梱包名称	符号	部 品 名 称	個数	形 状
木 枠 梱 包	⑦	吐出口B	1	
	⑧	吐出口C	1	
	⑨	止め栓	2	
	⑩	ノブボルトM6	4	
	⑪	ボルトM6	4	
	⑫	ナットM6	2	
	⑬	エンジン用工具	2	
	⑭	「取扱説明書」 (自走カッタ)	1	
⑮	「取扱説明書」 (エンジン)	1		

MEMO

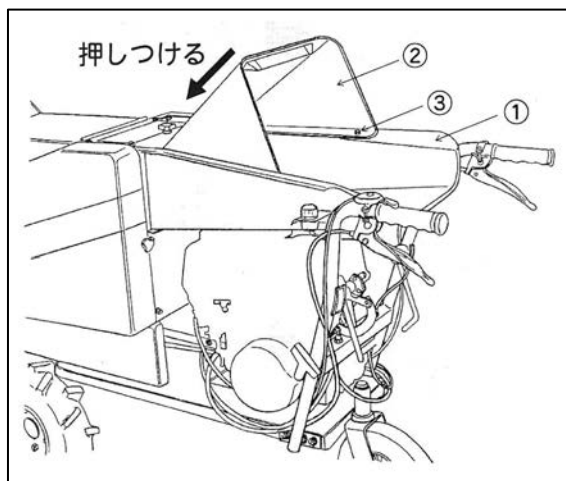
第 4 章

組 立 て 作 業

4.1 送り樋カバーの取付け

- 下記の手順に従って取り付けてください。

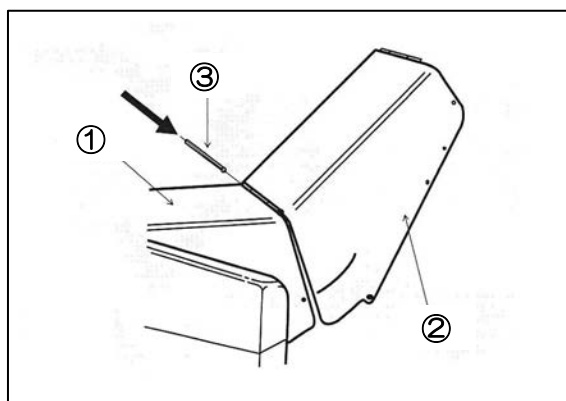
- (1) 送り樋①に送り樋カバー②の先端を差し込み、押しつけながらボルト M6③ (2 個) を使用して固定してください。



4.2 吐出口の取付け

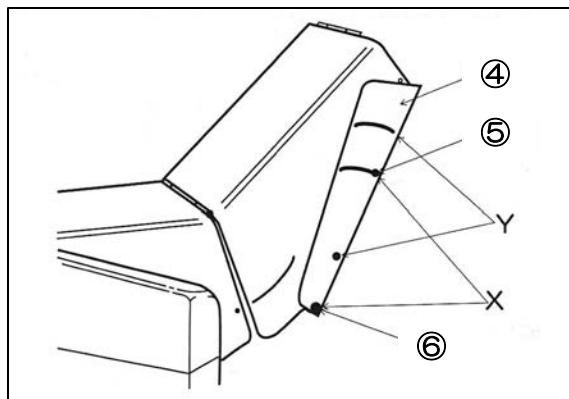
- 下記の手順に従って取り付けてください。

- (1) ケーシング A①と吐出口A②に、止め栓③を打ち込んでください。



- (2) 吐出口A を適当な高さに上げた状態で、吐出口B④をボルトM6⑤（2 個）およびナットM6⑥（2 個）を使用して固定してください。

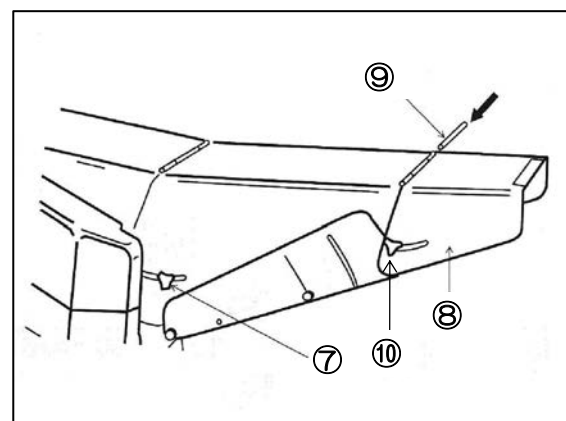
- この時、吐出口A を水平に近い状態で使用したいときにはX、角度をつけて使用したいときにはYの位置で固定してください。



- (3) 吐出口A を下げて側面からノブボルト M6⑦（2 個）を使用して本体に固定してください。

- (4) 吐出口A と吐出口C⑧に止め栓⑨を打ち込んでください。

- (5) 吐出口C を側面からノブボルト M6⑩（2 個）を使用して吐出口A に固定してください。



4.3 給油

- 出荷時は、ミッションにはオイルが給油されていますが、エンジンのクランク室にはオイルが入っていません。したがって、「給油の要領」（7.5 項）に従って給油してください。

4.4 試運転作業

- 本自走カッタの組立完成品をはじめて運転するときは、下記の手順に従っておこなってください。

⚠ 危険

- 本自走カッタを運転するときは、「第一章 安全」の項の指示に従ってください。誤った取扱い方をすると、死亡事故につながる恐れがあります。

4.4.1 試運転前の確認事項

(1) 始業点検

「始業点検」(7.1 項)に従って始業点検を実施してください。

⚠ 危険

- 本自走カッタの点検・調節・整備をするときは、必ずエンジンを停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと、回転刃による重傷事故を起こす恐れがあります。

(2) すべてのカバー類を取り付けてください。

⚠ 危険

- 本自走カッタの点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類を確実に取り付けてください。安全カバーをしないで運転すると、回転物に接触、または巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

4.4.2 試運転

- 運転を始める前に、下記の注意事項を守って試運転をおこなってください。

危険

- エンジンを始動するときは、必ず走行クラッチレバーを「ブレーキ」、カタクラッチレバーを「切」、供給クラッチレバーを「切」の位置にしてから、停止スイッチを「運転」にし、始動ロープを引いてください。レバーを「切」の位置にしないと、始動ロープを引いたとき、走行したり回転刃が回転したりしてしまい、重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- エンジンの始動後、供給口や吐出口から手を入れないでください。うっかり手を入れると重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- カバーをはずしたままで運転しないでください。回転部に接触し、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

注意

- 吐出口の方向は人や家畜に向けないでください。切断物が当たるとけがをすることがあります。

 **警告**

- エンジンの周辺はいつもきれいに掃除してから運転してください。火災の原因となる恐れがあります。

- (1) 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にしてください。
- (2) カッタクラッチレバーを「切」の位置にしてください。
- (3) 供給クラッチレバーを「切」の位置にしてください。
- (4) 次の手順に従ってエンジンを始動してください。
 - エンジンについては、エンジンの「取扱説明書」に従ってください。
 - ① エンジンの燃料コックを「開」の位置にしてください。
 - ② エンジンの停止スイッチを「運転」にしてください。
 - ③ スロットルレバーを「高」と「低」の中間位置にしてください。
 - ④ チョークレバーを「閉」の位置にしてください。
 - ⑤ 始動ロープを使ってエンジンを始動してください。
 - ⑥ 始動したらチョークを「開」の位置にしてください。
 - ⑦ 始動後、約5分間低速で、無負荷の状態暖機運転をしてください。
- (5) エンジンの始動後、異常な点が発見されたら原因を究明し、修正してください。
 - この「取扱説明書」に記載のない作業に関しては、購入先に相談してください。
- (6) 次の手順に従って走行時の確認をおこなってください。
 - ① スロットルレバーを「低」の位置にしてください。

 **危険**

- 発進・停止は低速でおこなってください。急に動き出したりして、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- ② 走行クラッチレバーを「入」の位置にしてください。
 - この時、本自走カッタがスムーズに前進方向に動くことを確認してください。
- ③ サイドクラッチレバーを握ってください。
 - 握った方向に旋回することを確認してください。
- ④ 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にして、停止してください。
- ⑤ 前・後進チェンジギヤを「後進」に入れてください。
- ⑥ 走行クラッチレバーを「入」の位置にしてください。
 - 本自走カッタが後進方向にスムーズに動くことを確認してください。
- ⑦ 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にして、前後進チェンジレバーを「前進」の位置にして停止してください。

(7) 次の手順に従ってカッタ作業の確認をおこなってください。

- ① カッタクラッチレバーを「入」の位置にしてください。
- ② 供給クラッチレバーを「入」の位置にしてください。
- ③ エンジンのスロットルレバーを「高」の位置まで静かに上げて、異常がないことを確認してください。
 - 異音がなければ正常です。

(8) 「エンジンの停止」の項(5.5項)に従って、エンジンを停止させてください。

第 5 章

運 転 操 作

⚠ 警告

- エンジン周辺はいつもきれいに掃除してから運転してください。火災の原因となる恐れがあります。

5.1 運転前の準備

⚠ 危険

- カバーをはずしたままで運転しないでください。回転部に接触し、人身事故を起こす恐れがあります。

(1) 本自走カッタを平坦地に置いてください。

(2) 「始業点検」(7.1 項) に従って始業点検を実施してください。

⚠ 危険

- 本自走カッタの点検・調節・整備をするときは、必ずエンジンを停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。

(3) 吐出口Cを調節して、切断物の放出距離を合わせてください。

⚠ 注意

- 吐出口の方向は人や家畜に向けないでください。切断物が当たるとケガをする恐れがあります。

5.2 エンジンの始動

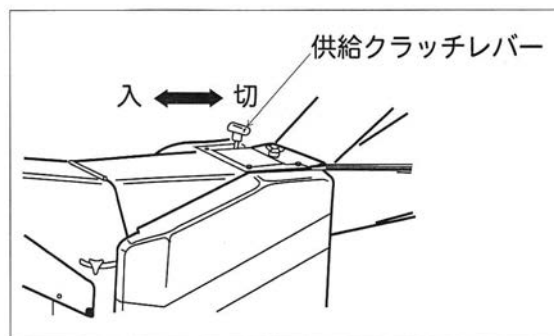
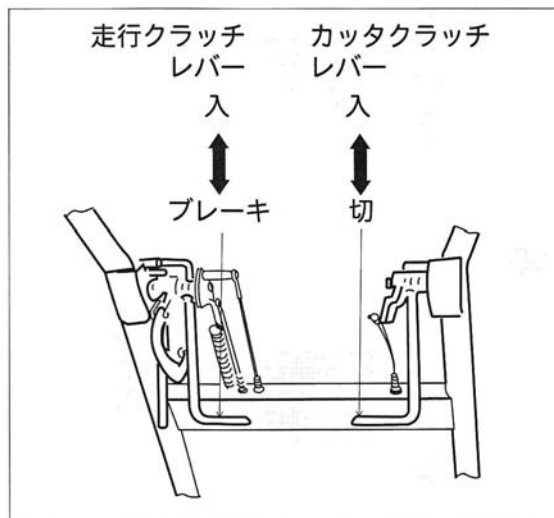
⚠ 危険

- エンジンの始動後、供給口や吐出口から手を入れないでください。うっかり手を入れると重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- エンジンを始動するときは、必ず走行クラッチレバーを「ブレーキ」、カタクラッチレバーを「切」、供給クラッチレバーを「切」の位置にしてから、停止スイッチを「運転」の位置にして、始動ロープを引いてください。レバーを「切」の位置にしないと、始動ロープを引いたとき、走行したり回転刃が回転したりしてしまい、重大な人身事故を起こす恐れがあります。



● 下記の手順に従ってエンジンの始動をおこなってください。

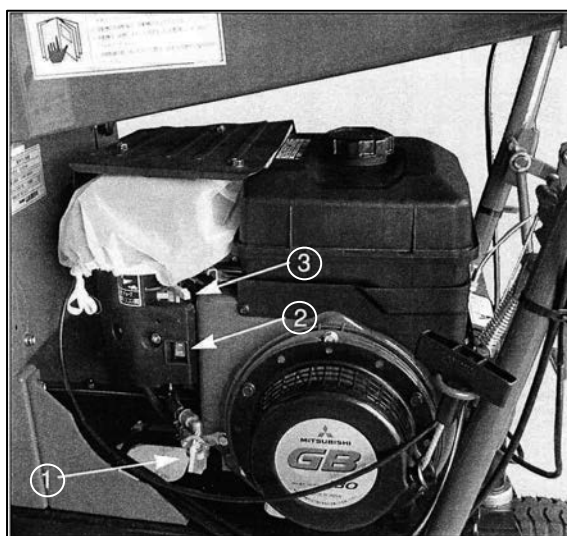
- (1) 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にしてください。
- (2) カッタクラッチレバーを「切」の位置にしてください。
- (3) 供給クラッチレバーを「切」の位置にしてください。



(4) 次の手順に従ってエンジンを始動してください。

● エンジンの始動はエンジンの「取扱説明書」に従っておこなってください。

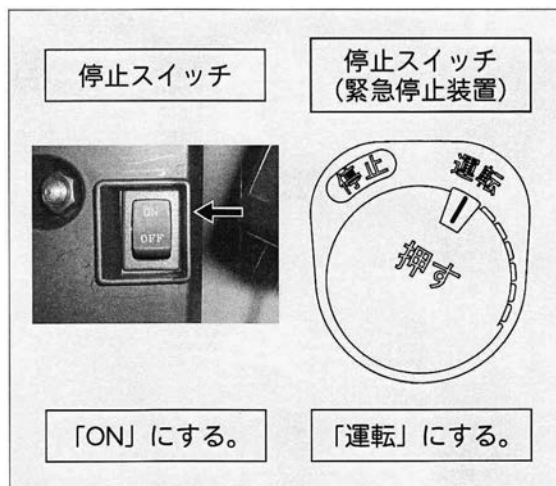
- ① エンジンの燃料コック①を「開」の位置にしてください。



- ② エンジンの停止スイッチ②をそれぞれ「ON」「運転」にしてください。

注 記

- 双方のスイッチが「ON」「運転」でエンジンが始動できます。
- 片方が「OFF」又は「停止」では始動できません。

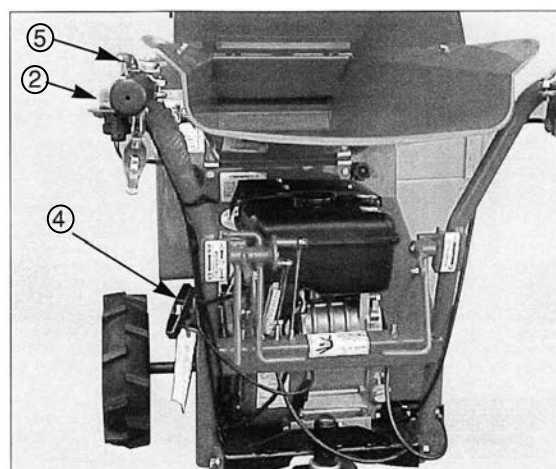


- ③ スロットルレバー⑤を「高」と「低」の中間位置にしてください。

- ④ チョークレバー③を「閉」の位置にしてください。

- エンジンが熱いときは不要です。

- ⑤ 始動ロープ④を使ってエンジンを始動してください。



- ⑥ スタートしたらチョークを「開」の位置にしてください。

- ⑦ 始動後、約5分間低速で、無負荷の状態暖機運転をしてください。

5.3 走行運転

危険

- 坂道や凸凹、カーブの多い道路では高速運転をしないでください。転倒などをして、人身事故を起こす恐れがあります。

警告

- 坂道ではサイドクラッチレバーを使わないでください。サイドクラッチレバーを使った方の車輪がニュートラル状態になり、逆旋回し重大な人身事故を起こす恐れがあります。
旋回は、ハンドルを振っておこなってください。

注意

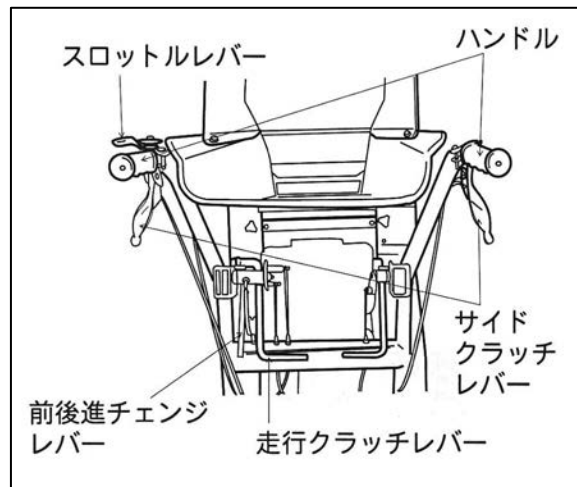
- 走行時は絶対に手放し運転をしないでください。人身事故につながる可能性があります。

注 記

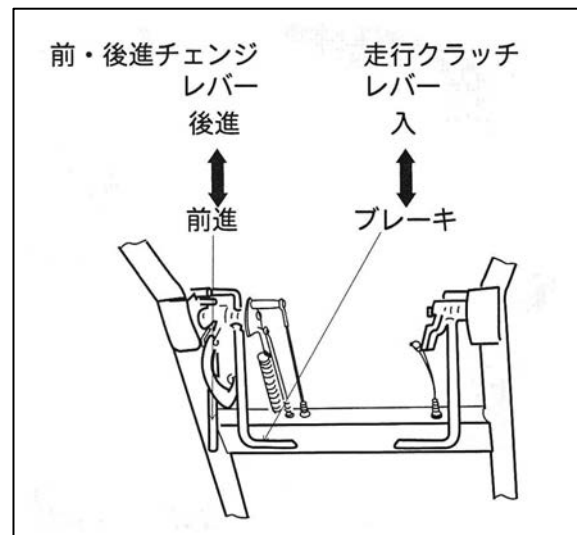
- 走行時は、進行方向に障害物がないことを確認して、低速で発進してください。本自走カッタを損傷することがあります。

5.3.1 前進走行

- (1) 「エンジンの始動」(5.2 項)に従って、エンジンを始動してください。
- (2) 前後進チェンジレバーを「前進」位置にしてください。
- (3) スロットルレバーを「低」の位置にしてください。



- (4) 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置から「入」の位置にセットすると、本自走カッタが前進方向に動きます。
 - スロットルレバーで速度を調節しながら走行運転をしてください。



- (5) スロットルレバーを「低」の位置にしてください。
- (6) 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にしてください。
 - 走行が停止しますので、次の作業ができます。

5.3.2 後進走行

- (1) 「エンジンの始動」(5.2 項)に従って、始動してください。
- (2) 前・後進チェンジレバーを「後進」位置にしてください。
- (3) スロットルレバーを「低」の位置にしてください。
- (4) 走行クラッチレバーを「ブレーキ」から「入」に操作すると、本自走カッタが後進方向に動きます。

注意

- 後進走行は低速でおこなってください。重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- (5) 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にしてください。
- (6) 前後進チェンジレバーを「前進」の位置にしてください。
 - 走行が停止しますので、次の作業ができます。

注 記

- 右旋回・左旋回の場合走行しながら右側サイドクラッチレバーをにぎると右へ旋回し、左側のサイドクラッチレバーをにぎると左へ旋回します。
- 走行クラッチレバーは静かに入れてください。急激なクラッチ操作は、事故やエンストの原因となります。

警告

- 坂道ではサイドクラッチレバーを使わないでください。サイドクラッチレバーを使った方の車輪がニュートラル状態になり、逆旋回し重大な人身事故を起こす恐れがあります。
旋回は、ハンドルを振っておこなってください。

5.4 カッタ作業

5.4.1 カッタ作業の手順

- 下記の手順に従ってカッタ作業をおこなってください。

危険

- 走行しながらのカッタ作業は、絶対にしないでください。重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- (1) 「運転前の準備」(5.1 項)に従って作業の準備をしてください。
- (2) 「エンジンの始動」(5.2 項)に従ってエンジンを始動してください。
- (3) スロットルレバーを「低」の位置にしてください。
- (4) カッタクラッチレバーを断続的に動かして「入」の位置にして、回転刃を回転させてください。
- (5) スロットルレバーをゆっくり「高」の位置にしてください。
- (6) 供給クラッチレバーを「入」の位置にしてください。
 - 供給ローラが回転します。
- (7) 供給物を送り樋より入れてください。

注 記

- 供給クラッチレバーの操作は迅速、確実にしてください。
- 作業中、供給クラッチレバーを「切」にする場合は、非常時をのぞいて、カッタに供給物がなくなってから供給クラッチレバーを「切」にしてください。再始動時、刃物に供給物がかみこんだ状態で始動できない場合があります。
- カッタクラッチレバーは、断続的に動かして「入」の位置にしてください。急激なクラッチ操作は、事故やエンジンの原因となります。
- 風のある日は、作業やエンジンにほこりがかからないように、機体の向きを考えて作業をしてください。

5.4.2 供給物の上手な供給方法

⚠ 危険

- 運転中、供給物を引っ張ったり、押し込んだり、付着物を手で取ったりすることは絶対にしないでください。巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

⚠ 注意

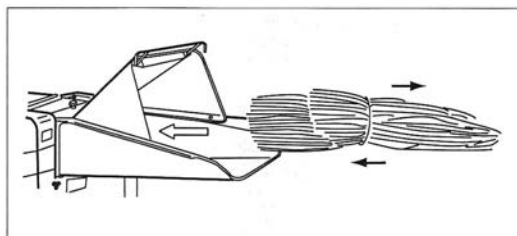
- 供給物に石や金属など、異物が入らないように注意してください。思わぬ事故や機械が損傷することがあります。

注 記

- 供給物は均一に丁寧に送り桶に入れてください。

(1) 大束のわら（バインダーによるわら束）など

- 束を半分ずらして供給してください。

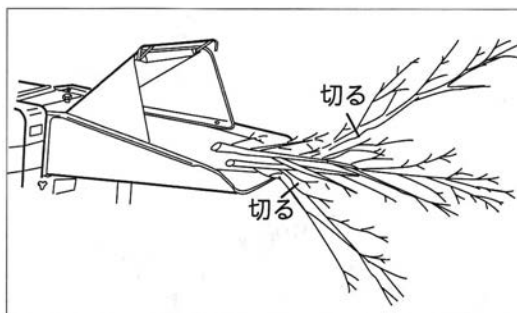


(2) デントコーン

- 3～4本ずつ供給してください。

(3) せんてい枝、残条

- せんてい枝は、くい込みやすいように大枝を切って供給してください。



注 記

- せんてい枝、残条は直径 20 mm を超える物は切断しないでください。

- 毎時性能は、供給物、切断長さ、刃物の状態等により変わります。

5.4.3 刃物の研磨時期の見分け方

⚠ 警告

- 刃物の交換あるいは研磨をしたあとは、必ず刃のすき間調節をおこなってから運転してください。重大な事故につながる恐れがあります。

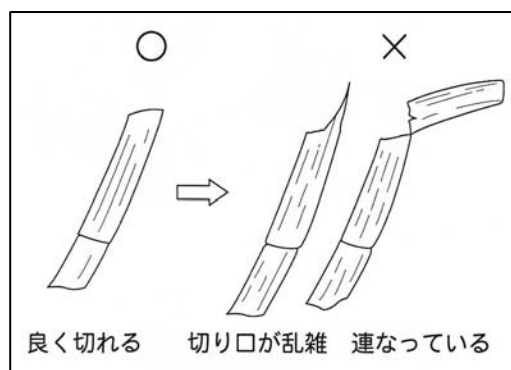
⚠ 注意

- 刃物の点検や、研磨あるいは交換をする時は厚手の革手袋を着用しておこなってください。けがをすることがあります。

(1) 刃物の刃先に丸味がでてきて切れなくなったら、早目に調節・研磨または交換をしてください。

- 「刃物の交換と調節の要領」(7.8 項) を参照してください。

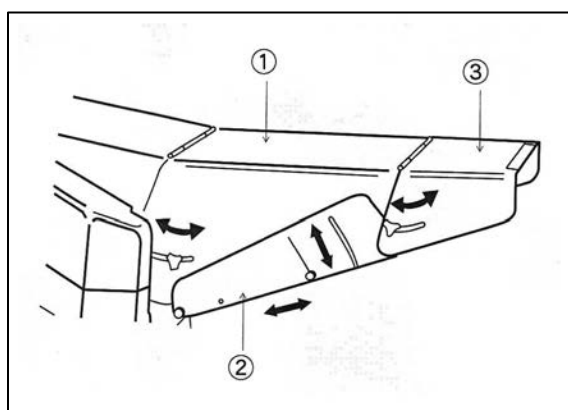
(2) 刃物の切れ方はわらの切口(右図参照)を見ても見分けることができます。



5.4.4 放出距離の合せ方

切断物の放出距離は、吐出口 A①、吐出口 C③で調節します。

- 吐出口 A を立てたときは、吐出口 B②を下にずらしてください。
- 吐出口が詰まるときは、吐出口 B を長穴分ずらし、吐出口を広くしてください。
- 「吐出口の取付け」(4.2 項) を参照してください。

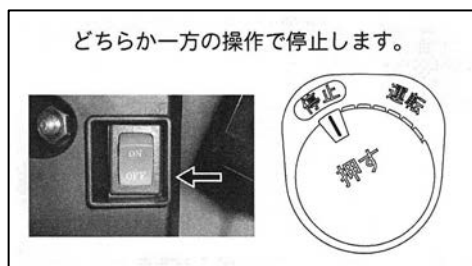


5.5 エンジンの停止

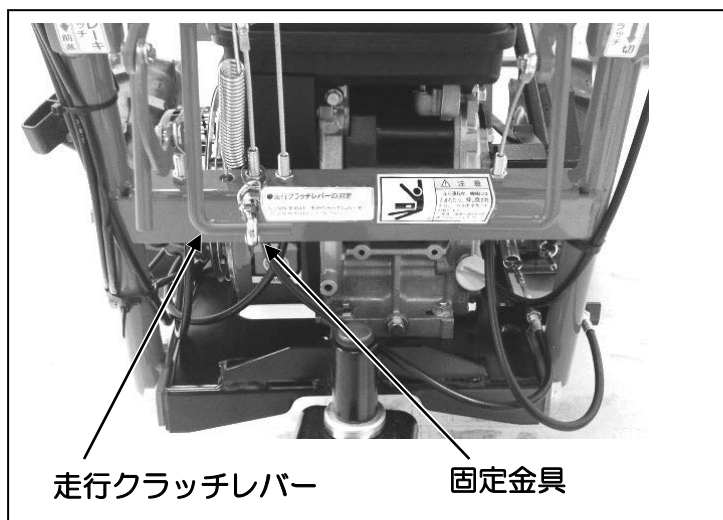
注 記

- エンジンを停止させるときは、必ずスロットルレバーを「低」の位置にしてください。さらに、クラッチ類を「切」の位置にしてください。

- (1) 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置、前後進チェンジレバーを「前進」の位置にしてください。
- (2) 供給クラッチレバーを「切」の位置にしてください。
- (3) カッタクラッチレバーを「切」の位置にしてください。
- (4) スロットルレバーを「低」の位置にしてください。
- (5) エンジンの停止スイッチを「OFF」又は「停止」にしてください。



- (6) エンジンの燃料コックを「閉」の位置にしてください。
- (7) 走行クラッチレバーを固定金具で固定してください。

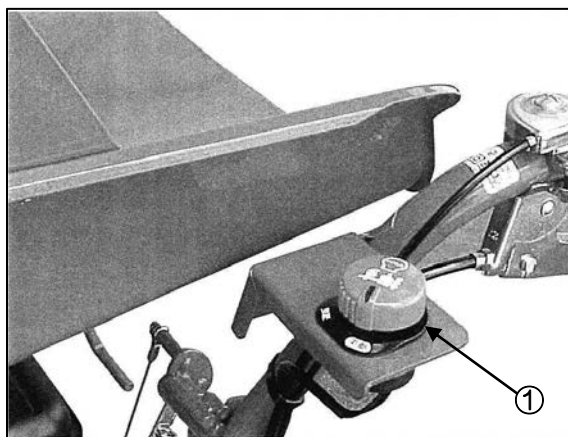


⚠ 危険

- 本自走カッタから離れるときは、次のことを守ってください。重大な人身事故または火災の原因となる恐れがあります。
 - 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にして、レバーを固定金具で固定してください。
 - 安定した場所に置いてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、車輪止めの石などを車輪に当てがって、自然発進を防止してください。
 - エンジンを停止させてください。
 - エンジンが冷えるまで離れないでください。

5.6 緊急停止

- 緊急停止する場合は、停止スイッチ①（緊急停止装置）を押してください。停止の位置になり、エンジンが停止します。



5.7 作業終了後の点検

⚠ 危険

- 本自走カッタの点検・調節・整備をするときは、必ずエンジンを停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- (1) カッタ内部の切りくずを掃除してください。
 - 「内部の切りくず、軸の巻付きの掃除要領」(7.3 項) を参照してください。
- (2) 軸の巻付きを取り除いてください。
 - 「内部の切りくず、軸の巻付きの掃除要領」(7.3 項) を参照してください。
- (3) 刃の摩耗状態を点検してください。
 - 刃先の丸味が大きくなったら、研磨作業を購入先に依頼してください。
- (4) 刃の取付けねじのゆるみを点検して、ゆるみがあったら締め付けてください。

⚠ 危険

- 本自走カッタの点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類を確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、回転物に接触、または巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

(5) エンジンの周囲を掃除してください。

⚠ 危険

- 本自走カッタから離れるときは、次のことを守ってください。重大な人身事故または火災の原因となる恐れがあります。
 - 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にして、レバーを固定金具で固定してください。
 - 安定した場所に置いてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、車輪止めの石などを車輪に当てがって、自然発進を防止してください。
 - エンジンを停止させてください。
 - エンジンが冷えるまで離れないでください。

第 6 章 簡単な故障診断

- 本自走カッタ運転中に何かの異常が発見されたら、この章を参照し点検をおこなってください。それでも異常が取り除けない場合は、購入先へ連絡してください。

- 異常が発見された場合
 - (1) 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にして、前後進チェンジレバーを「前進」の位置にしてください。
 - (2) 供給クラッチを「切」の位置にしてください。
 - (3) カッタクラッチを「切」の位置にしてください。
 - (4) 停止スイッチを押して、エンジンを停止してください。
 - (5) 走行クラッチレバーを固定金具で固定してください。
 - (6) 異常が発見されたときは、「異常処置の表」(42 ページ)に従って対処してください。
 - (7) 種々の処置後、本機が回復したら、再度運転操作手順に従って運転操作をおこなってください。

危険

- 本自走カッタの点検・調節・整備をするときは、必ずエンジンを停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。

異常処置の表

異常のようす	原 因	処 置
回転刃が回らない	● カッタ駆動用ベルトがはずれている。	かけなおす。
	● テンションプーリがはずれている。	かけなおす。
	● 回転刃、固定刃間に供給物がかみ込んでいる。	供給物を取り除く。(7. 3項参照)
運転中エンジンが停止する	● 供給物の入れすぎ。	供給物を取り除き、再度エンジンを始動し、作業は適量ずつ供給する。 (5.4.2・7.3 項参照)
	● 燃料パイプのつまり、またはふさがり。	エンジンの点検・清掃。(エンジンの「取扱説明書」参照)
	● 燃料が無くなっている。	燃料を補給する。(7. 4項参照)
切れ味が悪い	● 回転刃の摩耗。	刃の研磨。(7. 8項参照)
	● 固定刃の摩耗。	刃の研磨 (ハイス)。(7. 8項参照)
	● 回転刃、固定刃のすき間が大きい。	刃のすき間調節。(7. 8項参照)
吐出口が詰まる	● 吐出口Bの上へ切断物が堆積。	吐出口Bを長穴分ずらし、吐出口を広くする。(5.4.4 項参照)
	● 回転数が少ない。	スロットルレバーで回転数を上げる。
異音がする	● 油が切れている。	給油する。(7. 5、7. 6項参照)
走行しない	● 走行用ベルトがはずれている。	かけなおす。(7. 9項参照)
	● テンションプーリがはずれている。	かけなおす。(7. 9項参照)

○ 第 7 章 ○

点検・調節・整備

⚠ 危険

- 本自走カッタの点検・調節・整備をするときは、必ずエンジンを停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- 本自走カッタの点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類を確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、回転物に接触、または巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

7.1 始業点検

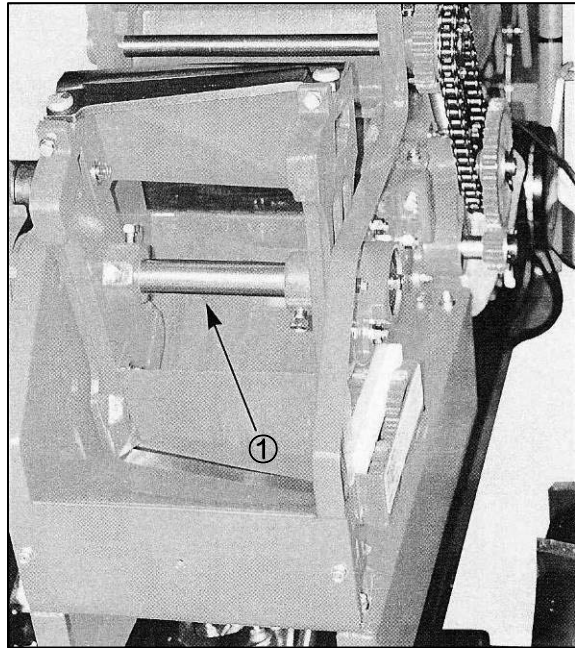
- 本自走カッタで運転するときは、必ず下記の項目を点検し、正常でない場合は調節または整備をしてください。ただし、この「取扱説明書」に記載のない作業については、購入先に依頼してください。

⚠ 危険

- 安全カバー類をはずすときは、必ずエンジンを停止させてからおこなってください。運転したままおこなうと、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

(1) 本自走カッタのカバー類をはずして、本体内部および外部に切りくず、軸部①に巻付きなどがなくを確認してください。

- 「内部の切りくず、軸の巻付きの掃除要領」(7.3 項)に従っておこなってください。



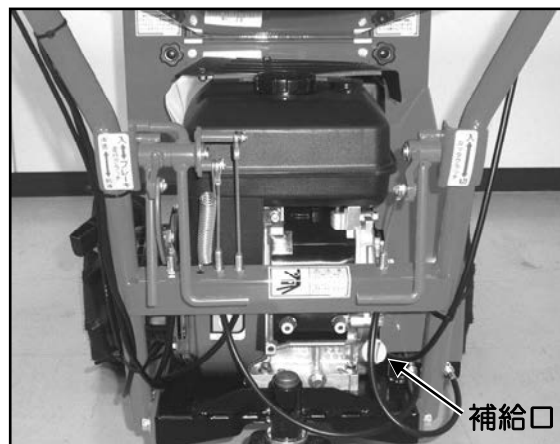
(2) 燃料を満タンにしてください。

- 「燃料の補給要領」(7.4 項)に従って、エンジンの燃料タンク②を満タンにしてください。



(3) エンジンクランク室にエンジンオイルを補給してください。

- 「給油の要領」(7.5 項)に従っておこなってください。



(4) 給脂個所に給脂してください。

- 「給脂の要領」(7.6 項)に従っておこなってください。

(5) 主軸を手で回したとき、回転刃が固定刃にあたらないことを確認してください。また異常音がないことを確認してください。

- 異常がみつかったら、刃のすき間調節をおこなってください。
- 「刃物の交換と調節の要領」(7.8 項)に従って刃のすき間調節をおこなってください。

警告

- 固定刃と回転刃が接触、または干渉したまま運転すると、重大な事故となる恐れがあります。

(6) 安全カバーを元の位置に取り付けてください。

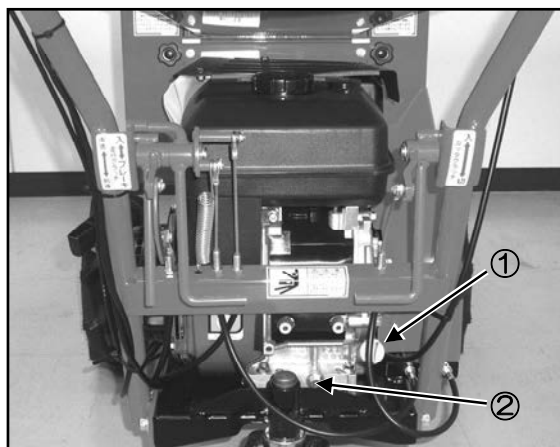
7.2 定期点検

7.2.1 20 時間後の点検（第 1 回目）

- 自走カッタを購入して 20 時間の使用後に、第 1 回目の点検を下記の通り実施してください。

(1) エンジンクランク室へのエンジンオイルの交換

- ① ドレンボルト②をゆるめ、汚れたオイルを抜きとってください。
 - 汚れたオイルは準備した容器に受けてください。
- ② ドレンボルトをもとのように固定してください。
- ③ 「給油の要領」(7.5 項) を参照して、オイルゲージ①から給油してください。



7.2.2 50 時間毎の点検（第 2 回目）

- 第 2 回目の点検を、第 1 回目から 50 時間毎に下記の通り実施してください。

(1) エンジンクランク室のエンジンオイルの交換

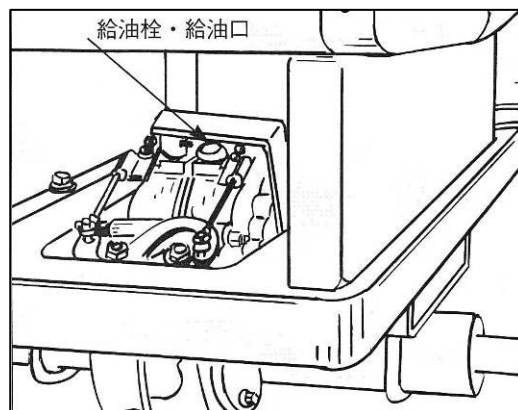
- 実施要領は、7.2.1 項と同じ要領でおこなってください。

7.2.3 300～500 時間（カッタ作業）毎の点検

- カッタ作業を 300～500 時間実施後、下記の通り実施してください。

(1) ミッションオイルの点検・補給

- ミッションオイルを給油口から補給してください。
- 点検補給要領については、「給油の要領」(7.5 項) を参照してください。



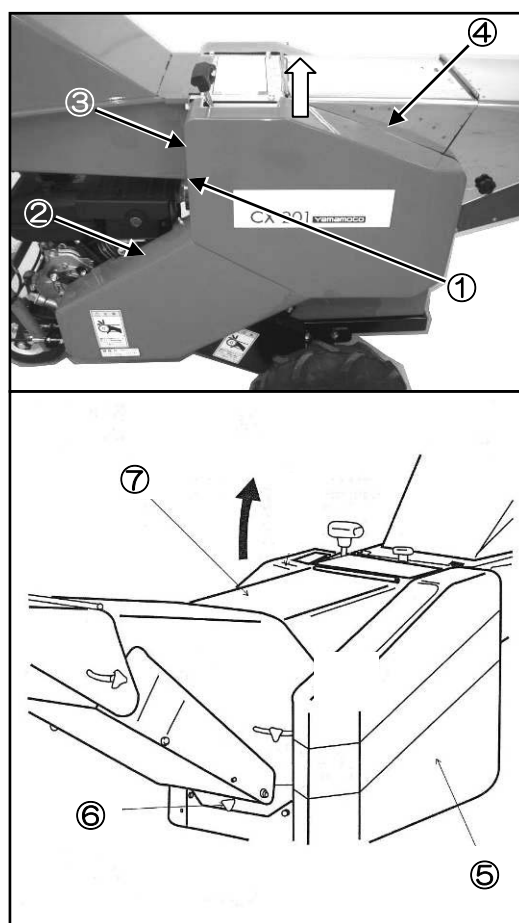
7.3 内部の切りくず、軸の巻付きの掃除要領

⚠ 危険

- 安全カバー類をはずすときは、必ずエンジンを停止させてからおこなってください。運転したままおこなうと、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- 掃除の要領は、下記の手順に従ってください。

- (1) 「エンジンの停止」(5.5 項) に従ってエンジンを停止してください。
- (2) 取付けボルト① (3 個) を取りはずして、カバーA② (台車用) をはずしてください。
- (3) ノブボルト③をはずし、カバーA④を上方に引きはずしてください。
- (4) 左側のノブボルト③の対称位置にある左側のカバーB⑤の固定用のノブボルトをはずして、カバーBを引きはずしてください。
- (5) ノブボルト⑥をはずし、ケーシングA⑦を上方に開いてください。
- (6) 本体内部に切りくず、軸部に巻付きなど、さらには本自走カッタの周囲にゴミなどが無いことを確認してください。



- (7) 切りくず、巻付きなどの掃除が終わったら、逆の手順で (5) ~ (2) に従ってカバー類を取り付けてください。

⚠ 危険

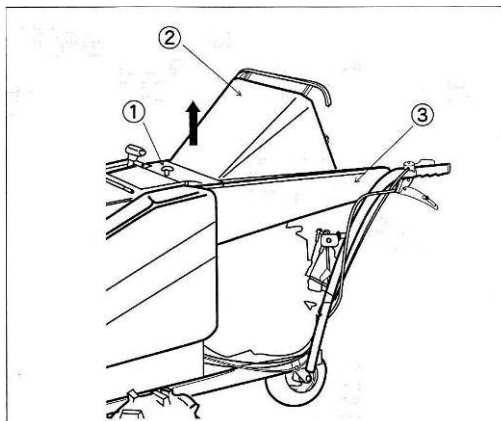
- 本自走カッタの点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類を確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、回転物に接触、または巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

7.4 燃料の補給要領

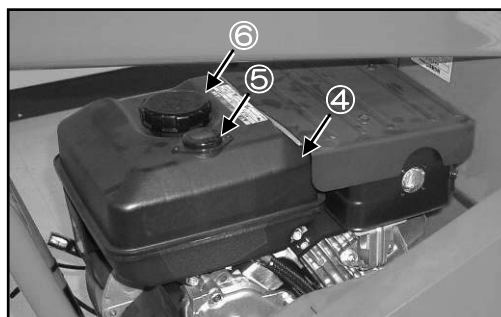
⚠ 警告

- 燃料を給油するときは、エンジンを停止させて、完全に冷えてから補給してください。エンジンが冷えていない状態で給油すると、火傷や火災の原因となる恐れがあります。

- (1) ノブボルト①をゆるめて、送り樋カバー②および送り樋③を一緒にはずしてください。



- (2) 送り樋の下にあるエンジン本体上部の燃料タンク④の右側の燃料レバー⑤を見て、燃料の量を確認してください。



- (3) 燃料タンクキャップ⑥を開けて、満タンになるまで指定燃料を補給してください。

注 記

- 燃料は無鉛ガソリンを使用してください。

⚠ 危険

- 燃料の給油中は、くわえたばこまたは裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火するので危険です。

7.5 給油の要領

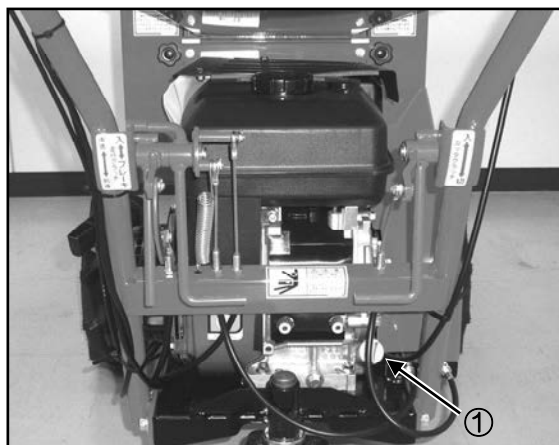
- 本自走カッタは、燃料の他に、エンジンクランク室とミッションに給油する必要があります。

警告

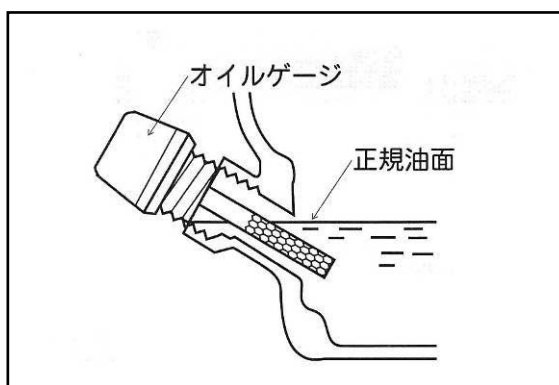
- オイルを給油するときは、エンジンを停止させて、完全に冷えてから補給してください。エンジンが冷えていないときに給油すると、火傷や火災の原因となる恐れがあります。
- 給油後、給油口のふたを確実にしめて、こぼれた油類をきれいに拭き取ってください。火災の原因となる恐れがあります。

(1) エンジンクランク室オイルの給油

- ① クランク室給油口のオイルゲージ①（ふた）を取って、オイルゲージの目盛を見て、オイル量を確認してください。



- オイル量はオイルゲージの目盛に合わせてください。
- オイル量が適量以下のときは、推奨エンジンオイルを補給してください。
- オイルが汚れている場合は、交換してください。



危険

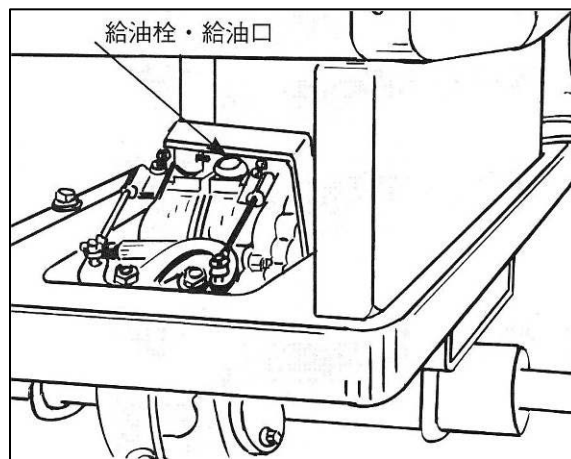
- オイルの給油中は、くわえたばこ、または裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火するので危険です。

注 記

- エンジンクランク室用推奨オイル
エンジンオイル#30、または#20
- 給油量
0.5~0.7ℓ

(2) ミッション用オイルの給油

- ① ミッションオイルの給油栓（ふた）をはずし、オイルの量を確認してください。
- ② ミッションにオイルを補給する必要がある場合は、購入先へ依頼してください。



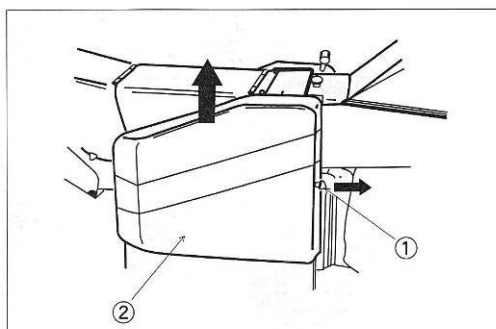
注 記

- ミッション用推奨オイル : ギヤオイル#90
- 給油量 : 0.7ℓ

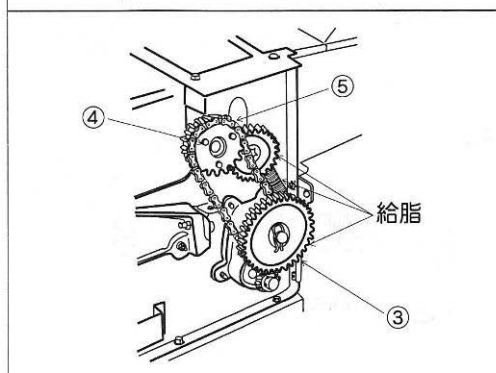
7.6 給脂の要領

- 下記手順に従って、給脂個所に推奨オイルを給油または給脂してください。

(1) 本自走カッタ左側にあるノブボルト①を1個取りはずし、カバーB②を上方に引きはずしてください。

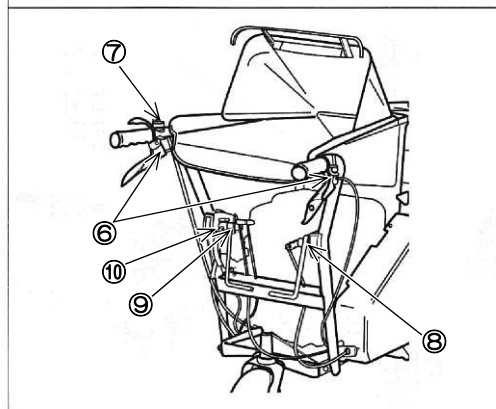


(2) ギヤ③ 4枚、スプロケット④ 2枚およびチェーン⑤にシャシ用グリースを充分給脂してください。



(3) 給脂したら、カバーBを確実に取りつけてください。

(4) サイドクラッチレバー⑥、スロットルレバー⑦、カッタクラッチレバー⑧、走行クラッチレバー⑨および前・後進チェンジレバー⑩の各支点部にギヤオイル#90を給油してください。



⚠ 危険

- 本カッタの点検・調節・整備終了後、すべての安全カバーを確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、回転物に接触、または巻き込まれて、重大な人身事故になる恐れがあります。

注 記

- 給油の際、Vベルトに油が付着しないようにしてください。スリップの原因となります。

7.7 切断長さの調節

- 切断長さの調節は、チェンジギヤの組合せを変えることにより、19mm、47mm、77mmの3種類の長さに切断することができます。またオプションのチェンジギヤを別途お買い求めいただきますと、下表の「切断長さ調節表」に従ってチェンジギヤを変えれば、さらに4種類の切断長さを24mmから154mmの間で選択することができます。
- 1枚刃で使用する場合は、オプションのバランスウエイトが必要です。
- 出荷時のチェンジギヤの組合せは、切断長さ19mmにセットされています。

切断長さ調節表

単位：mm

	標準仕様			オプション仕様			
	19	47	77	24	28	128	154
2枚刃仕様切断長さ	19	47	77	24	28	128	154
1枚刃仕様切断長さ	38	95	154	48	57	—	—
下ローラ軸側ギヤ	38	28	22	36	34	16	14
減速軸側ギヤ	12	22	28	14	16	34	36

⚠ 危険

- 本自走カッタの点検・調節・整備をするときは、必ずエンジンを停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- 本自走カッタの点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類を確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、回転物に接触または巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

⚠ 注意

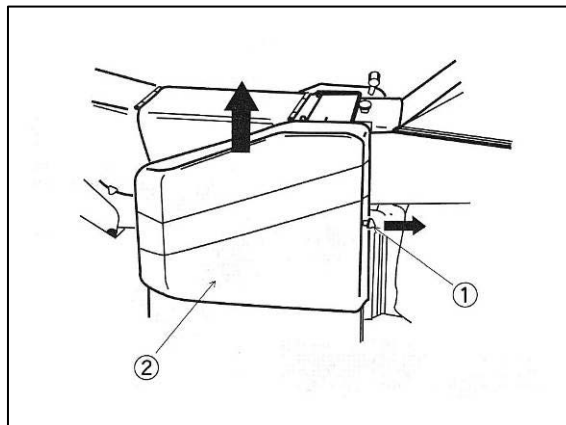
- 刃物の点検や、研磨あるいは交換をするときは、厚手の革手袋を着用しておこなってください。けがをすることがあります。

7.7.1 チェンジギヤの交換要領

- 下記手順に従ってギヤを交換してください。

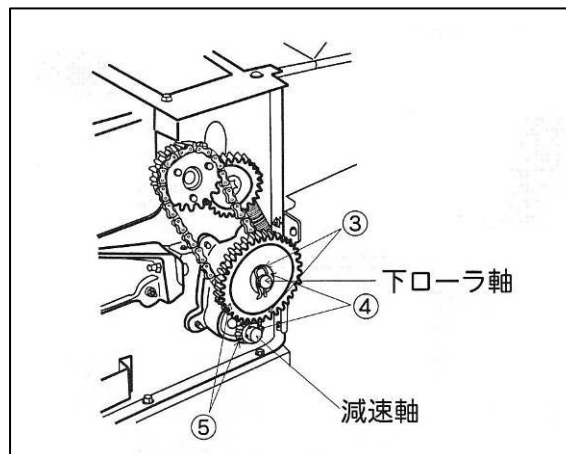
(1) 「エンジンの停止」(5.5 項) に従って停止してください。

(2) 本自走カッタ左側のノブボルト①を 1 個取りはずし、カバーB②を上方に引きはずしてください。



(3) R ピン③、座金④を取りはずして、ギヤ⑤を入れ換えてください。

(4) 交換終了後、各歯車に元の座金と R ピンを差し込んでください。



(5) 各歯車に推奨オイルを給脂してください。

(6) カバーB を元の位置に戻して、ノブボルトを締め付け、固定してください。

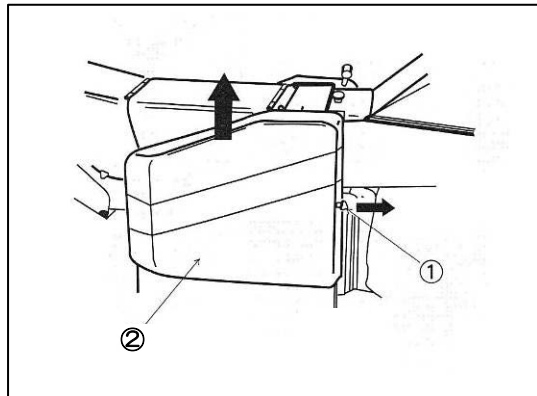
注 記

- 1 枚刃で使用する場合は、オプションのバランスウェイトが必要です。
- 100 mm以上の長切りは、主軸回転数を 600rpm に設定してください。

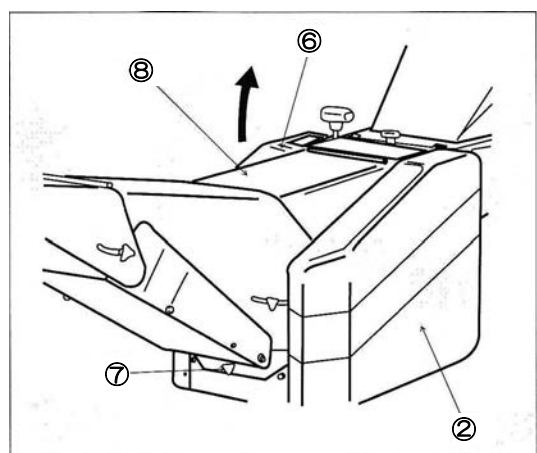
7.7.2 バランスウエイトの取付け要領

- オプションとしてバランスウエイトを別途お買い求めいただきますと、回転刃を 1 枚刃として使用することができます。1 枚刃にしますと、2 枚刃の切断長さのそれぞれ 2 倍の切断長さになります。下記の要領でバランスウエイトを取り付けてください。

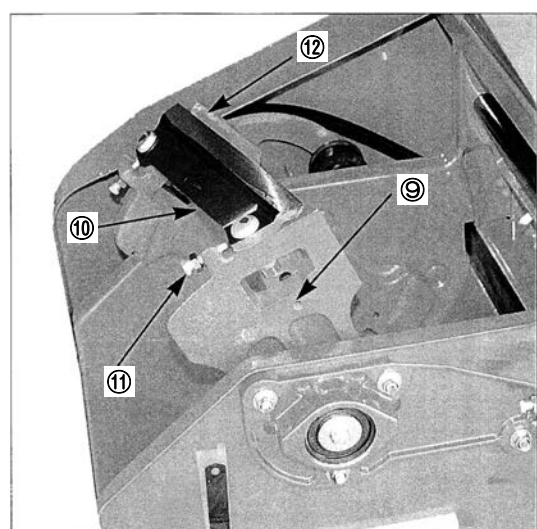
- (1) 本自走カッタ左側のノブボルト①をはずして、カバーB②を上方に引きはずしてください。



- (2) 左側のノブボルト①に対して対称位置にある右側のノブボルトをはずして、カバーA⑥を上方に引きはずしてください。



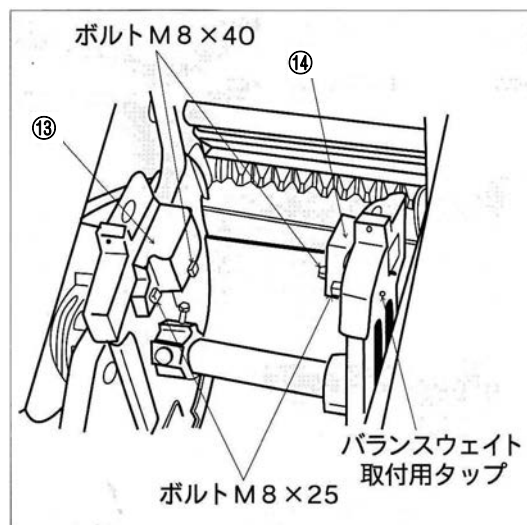
- (3) ノブボルト⑦をはずして、ケーシング A⑧ を上方に開いてください。



- (4) バランスウエイト取付け用のタップ⑨が付いている側の回転刃⑩、回転刃調節ボルト⑪および翼板⑫を取りはずしてください。

(5) バランスウエイト A^⑬およびバランスウエイト B^⑭を取り付けてください。

(6) バランスウエイト取付け後、静かに回して、回転刃の静バランスを確認してください。



付属部品

バランスウエイト A	1個
バランスウエイト B	1個
ボルト M8 x 25	2個
ボルト M8 x 40	2個

注 記

- 「静バランス」が良いということは、回転刃が回転周のどの位置でもおおよそ静止する状態をいいます。
- 静バランスが悪いときは、購入先にご相談ください。

7.8 刃物の交換と調節の要領

⚠ 危険

- 本自走カッタの点検・調節・整備をするときは、必ずエンジンを停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- 本自走カッタの点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類を確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、回転物に接触、または巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

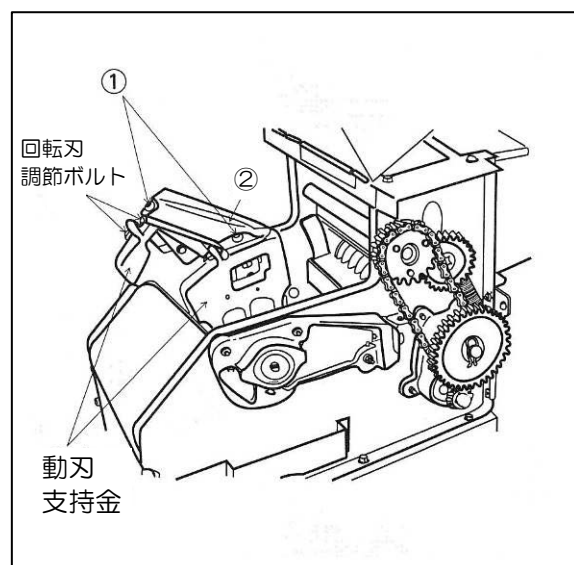
⚠ 注意

- 刃物の点検、研磨あるいは交換をするときは、厚手の革手袋を着用しておこなってください。けがをすることがあります。

7.8.1 回転刃の交換

- 下記の要領で回転刃を交換してください。

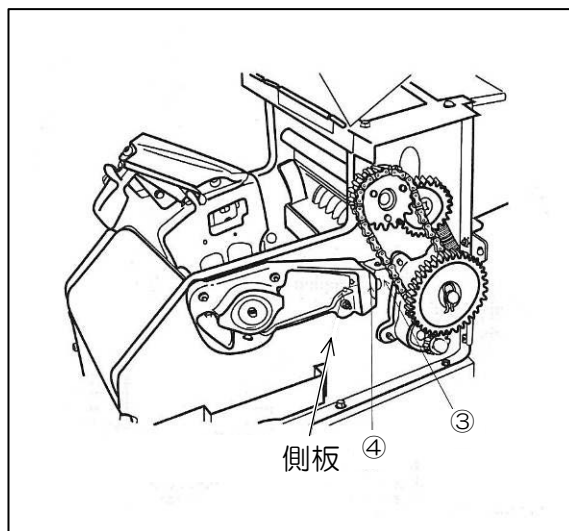
- (1) 「バランスウエイトの取付け要領」(7.7.2 項) の手順 (1) ~ (3) をおこなってください。
- (2) 回転刃取付けボルト①2 個をゆるめて、回転刃②2 枚を取りはずしてください。
- (3) 取付け部を清掃してください。
- (4) 新しい回転刃を逆の手順で取り付けてください。



7.8.2 固定刃の交換

- 下記の要領で固定刃を交換してください。

- (1) 「バランスウエイトの取付け要領」(7.7.2項)の手順(1)～(3)をおこなってください。
- (2) ボルト M10③ 2個をはずして、固定刃④を側板側から抜き取ります。
- (3) 取付け部をよく清掃してください。
- (4) 新しい固定刃を逆の手順で取り付けてください。



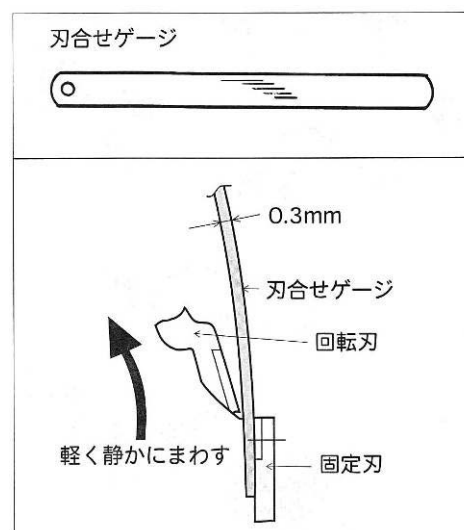
7.8.3 刃物のすき間の調節

注 記

- 刃のすき間調節は、刃物の交換あるいは研磨したときは、必ず実施してください。

- (1) 固定刃と回転刃のすき間が0.3 mmであることを付属の刃合せゲージ(0.3 mm)を使用して確認してください。

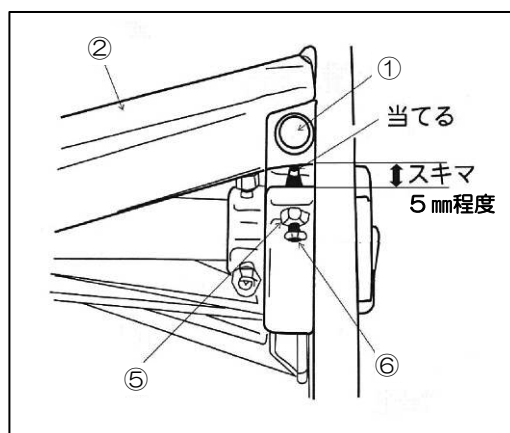
- ① 本自走カッタ付属の刃合せゲージを固定刃に、図のように添えてください。
- ② 回転刃を矢印方向(切断方向と反対)に手で静かに回してください。ゲージが回転刃と固定刃にはさまれ、接触しながら軽い程度に回転するとき、すき間が0.3 mmです。刃のすき間は、刃の中央と両端の3個所で確認してください。



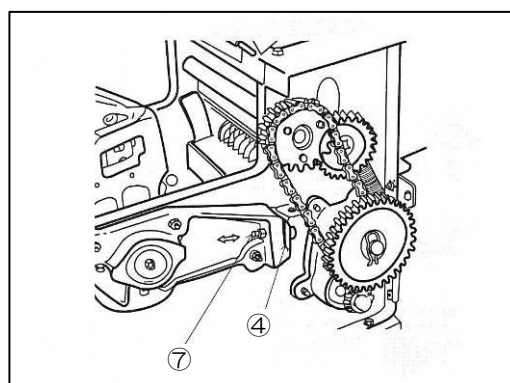
(2) 刃のすき間が0.2~0.3 mmでない場合

● 回転刃が2枚の標準仕様するとき

- ① ロックナット⑤、回転刃調節ボルト⑥をゆるめて、右図のスキマを5 mm程度にします。回転刃②の背の部分に回転刃調節ボルトの先端部が当たるようにして、回転刃を回転刃取付ボルト①で固定してください。
- ② 回転刃を固定した状態で回転刃調節ボルトを半回転程度回し、回転刃の背の部分に回転刃調節ボルトの先端部が確実に当たったことを確認して、ロックナットで固定してください。



- ③ 2枚の回転刃のうち、すき間の少ない刃の方を使用し、固定刃調節ボルト⑦で固定刃④を前後させて、すき間を0.2~0.3 mmに合わせます。合わせたらロックナットで固定してください。
- ④ もう一方の回転刃を回転刃調節ボルトで前に出して、すき間0.2~0.3 mmに合わせます。(回転刃取付ボルトは、少しゆるめておこないます。調節後は忘れずに締めてください。) 回転刃調節ボルトをロックナットで固定してください。



(3) 刃のすき間が0.2~0.3 mmでない場合

● 回転刃が1枚の仕様（オプション）するとき

- ① (2) の①~②をおこないます。
- ② 固定刃調節ボルト⑦で固定刃④を前後させて、すき間を0.2~0.3 mmに合わせます。合わせたらロックナットで固定してください。

注 記

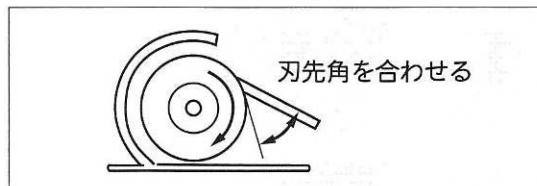
- 回転刃の調節ボルトを使用するときは、回転刃取付けボルトをゆるめてからおこなってください。
- 固定刃調節ボルトを使用するときは、固定刃を固定している M10 ボルトを少しゆるめてからおこなってください。
- 調節終了後は、回転刃取付けボルト・固定刃を固定している M10 ボルトを必ず締め付けて固定してください。

7.8.4 刃物の研磨の方法

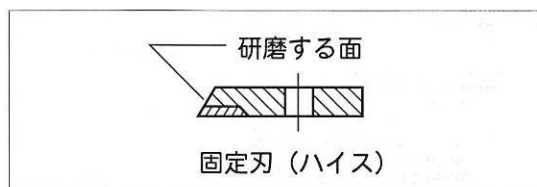
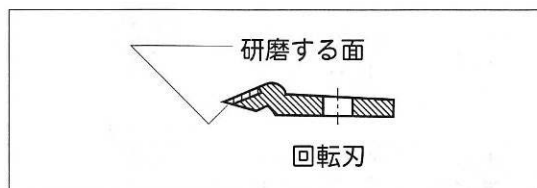
注意

- 刃物を研磨するときは保護メガネを着用しておこなってください。研磨材あるいは鉄の破片などが目に入ると大変危険です。

研磨機（水といし）に刃物の刃先角を合わせて研磨してください。



(1) 刃物の研磨面は、図の面を研磨してください。



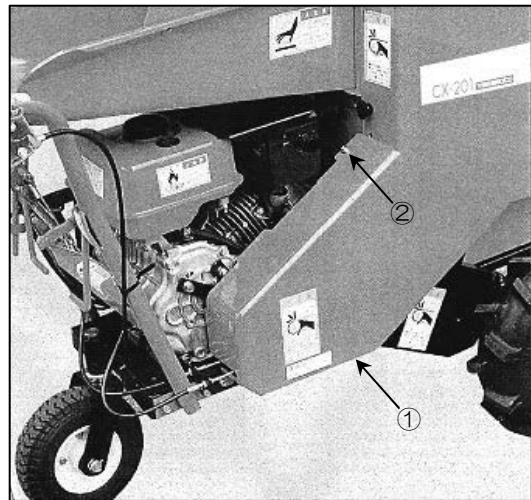
注 記

- 回転刃を取りはずしたときは（特に2枚刃仕様）、動刃支持金の同じ場所に、同じ回転刃を取り付けてください。すき間調節を楽におこなうことができます。

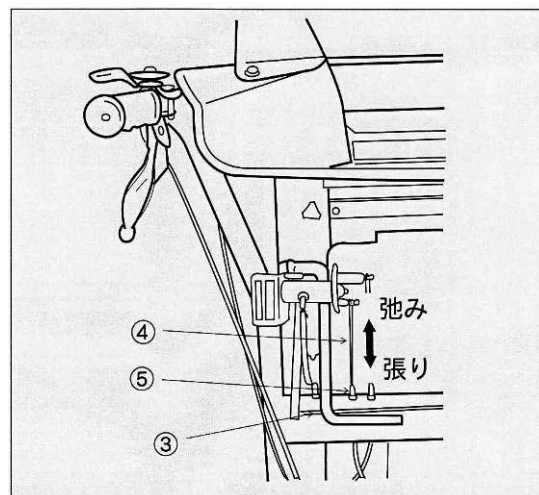
7.9 ベルトの張り方

7.9.1 走行ベルトの張り方

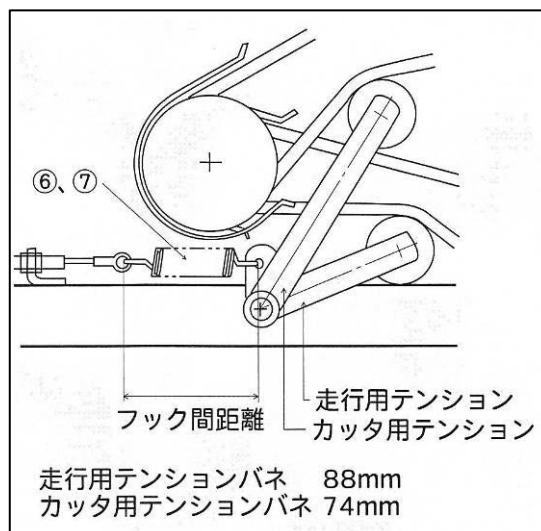
- (1) カバーA①（台車用）をボルト M6 ②を 3 個ゆるめて、取りはずしてください。



- (2) 走行クラッチレバー③を「入」の位置にしてください。



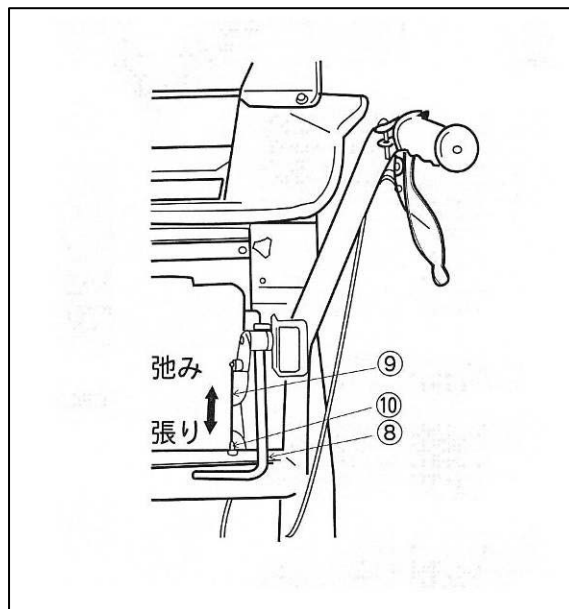
- (3) 走行クラッチワイヤ④の調節ねじ止めナット⑤で、走行用テンションバネ⑥のフック間距離が 88 mm になるようにして、ベルトの張り、ゆるみを調節してください。



- (4) 調節後、カバーA（台車用）を確実にボルトを使用して固定してください。

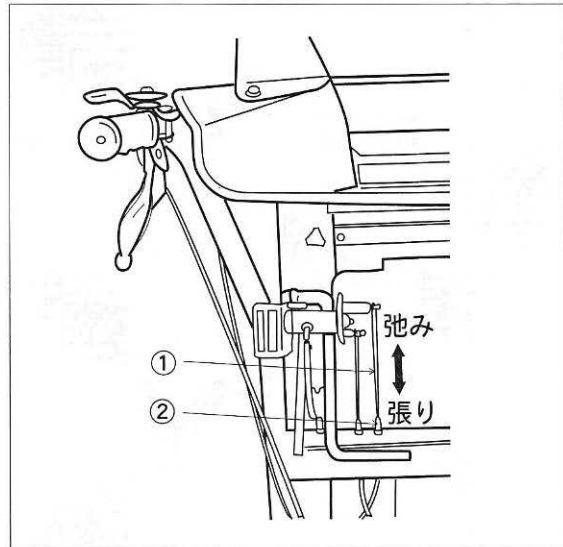
7.9.2 カッタベルトの張り方

- (1) 「走行ベルトの張り方」(7.9.1 項) の手順 (1) をおこなってください。
- (2) カッタクラッチレバー⑧を「入」の位置にしてください。
- (3) カッタクラッチワイヤ⑨の調節ねじ⑩止めナットで、カッタ用テンションバネ⑦のフック間距離が74 mmになるようにして、ベルトの張り、ゆるみを調節してください。
- (4) 調節後、カバーA (台車用) を確実にボルトを使用して固定してください。

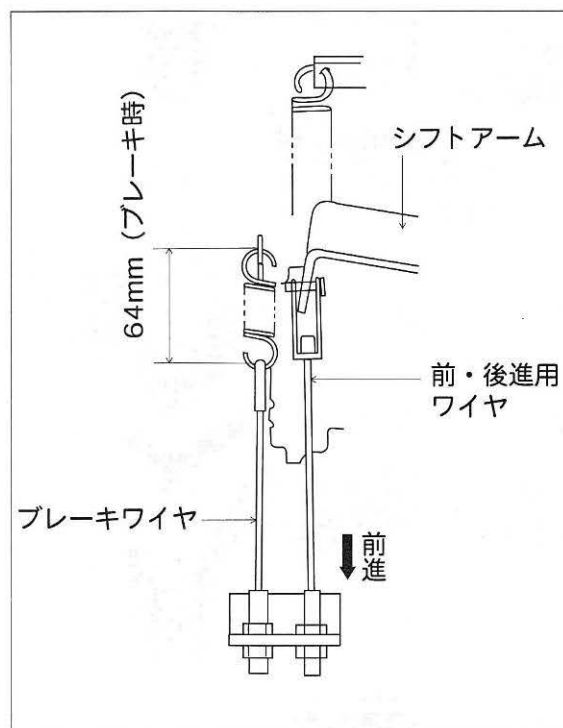


7.10 ブレーキの調節

- (1) 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にしてください。



- (2) ブレーキワイヤ①の調節ねじ②止めナットで、ブレーキ用バネのフック間距離が 64 mmになるように調節してください。

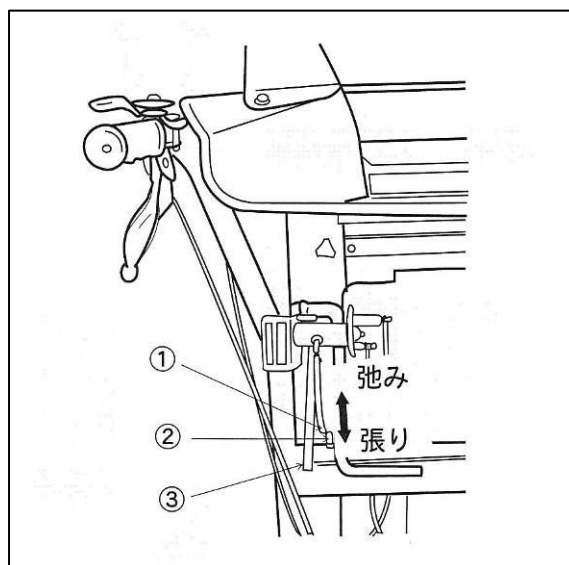


7.11 前・後進用ワイヤの調節

- 前・後進用ワイヤ①の調節ねじ②の止めナットで調節します。

前・後進チェンジレバー③を「後進」にしたとき、シフトアームがしっかりと引かれるようにワイヤを張ってください。

「前進」にしたとき、ワイヤがゆるんでいても支障はありません。



7.12 消耗品

- 本カッタの部品で次の部品は消耗品となっております。点検時消耗が激しいときには新品と交換してください。

No	部品名		コード	数量	備考 / (交換の目安)
1	回転刃	CX-160 シリーズ	111170-220200	2	100 時間 (研磨までの時間)
		CX-200 シリーズ	111180-220200		
2	固定刃	CX-160 シリーズ	111170-220801	1	100 時間 (研磨までの時間)
		CX-200 シリーズ	111180-220401		
3	案内刃	CX-160 シリーズ	111170-122300	1	500 時間
		CX-200 シリーズ	111180-120700		
4	ケーシングB	CX-160S シリーズ	111174-230100	1	約 1000 時間
		CX-200S シリーズ	111184-230100		
5	ケーシングA	CX-160S シリーズ	111174-230200	1	約 1000 時間
		CX-200S シリーズ	111184-230200		
6	ベアリング 6203UUJ		241140-006203	4	軸受C 500 時間
7	ベアリング 6202UUJ		241140-006202	4	中間歯車・ローラ支持金 500 時間
8	ベルト張り車		111212-204000	1	500 時間
9	ベアリング 6205UUJ		241140-006205	2	軸受 A・B 500 時間
10	ローラチェーン 40×44		111170-122600	1	1000 時間
11	Vベルト LA36		251313-036	1	1000 時間
12	Vベルト関係		—	—	500 時間
13	ギヤ関係		—	—	500 時間

第 8 章

格納・保管

8.1 格納の要領

- ① カバーA・カバーB・カバーA（台車用）を取りはずして、カバー内部、エンジン周辺の切りくずなどを取り除いてください。
- ② 機械内部・軸部へ巻き付いた切りくずなどを取り除いてください。
- ③ 給脂個所に充分給脂してください。
 - 「給脂の要領」（7.6 項）を参照してください。
- ④ ボルト・ナットのゆるみを調べ、ゆるんでいたら増し締めしてください。
- ⑤ 全ての刃物に油を塗布してください。
- ⑥ 風通しが良く、雨水のかからない日陰を選んで格納してください。

8.2 長期格納の要領

- 長期保管の場合は「格納の要領」の作業に加えて、下記の作業をおこなってください。
 - ① 長期保管時は、供給クラッチレバーを「切」、カタクラッチレバーを「切」、走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にし、固定金具で固定してから保管してください。
 - ② 風通しが良く、雨水のかからない日陰を選んで保管してください。

MEMO

お客さま相談窓口

製造元	株式会社	山本製作所
農機事業部		☎ (0237) 43-8811
北海道営業所		☎ (0126) 22-1958
東北営業所		☎ (0237) 43-8828
関東営業所		☎ (0285) 25-2011
新潟営業所		☎ (025) 383-1018
東海営業所		☎ (0566) 75-8001
大阪営業所		☎ (06) 4863-7611
岡山営業所		☎ (086) 242-6690
四国営業所		☎ (087) 879-4555
九州営業所		☎ (096) 349-7040

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後10年といたします。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

解体・廃棄について

解体は、組立作業の逆の手順でおこなってください。
廃棄する部品は、分別して処分してください。

製造元 **株式会社 山本製作所**

本社 山形県天童市
東根事業所 〒999-3701 山形県東根市大字東根甲 5800-1
TEL (0237) 43-3411 (代)